

塩竈市スタートカリキュラム

子どもたちの育ちと学びを なめらかに つなぐ！

小学校編（第3版）

平成31年2月
塩竈市教育委員会

塩竈スタートカリキュラム 小学1年生4月週案モデル

自校化の参考に
してください。

第1週のテーマ：初めまして，小学校！

日	4月8日	4月9日	4月10日	4月11日	4月12日
曜	月	火	水	木	金
行事	入学式	3校時限	3校時限	3校時限	4校時限
1		初めての学級 学校，教師の名前，自分 の座席などを覚える。	元気に挨拶 挨拶や返事，健康観察の 仕方を覚える。	楽しく歌おう 幼稚園や保育所で歌った 歌でリズム体操などを行 う。	自己紹介をしよう 自分の名前と好きなもの などをみんなに紹介す る。
		国語0.5 学活0.5	国語0.5 学活0.5	体育0.5 音楽0.5	生活0.5 国語0.5
2		使い方を知ろう 靴箱，トイレ，連絡袋な どの使い方を覚える。	使い方を知ろう 机や椅子，引き出し， ロッカーなどの使い方を 覚える。	好きな遊び 幼稚園や保育所で行って いた遊びを行う。	名刺を作ろう 自分の名前や好きなもの を書いて名刺を作る。
		生活0.5 学活0.5	生活0.5 学活0.5	体育0.5 音楽0.5	国語1
3		簡易給食 手を洗っていただきます 下校指導 同じコースで自己紹介	簡易給食 いただきます 下校指導 安全な下校の仕方	簡易給食 いただきます 下校指導 安全な下校の仕方	好きな遊び 校庭の遊具の使い方を知 り，楽しく遊ぶ。
		国語0.5 学活0.5	国語0.5 学活0.5	国語0.5 学活0.5	体育1
4					給食を知ろう 栄養教諭から給食に関す る話を聞く。 給食準備（6年補助）
					生活1
給食					いただきます
清掃					
5	入学式 入学式に参加し歓迎の言 葉を聞く。				
	学行1				
下校	14：45	11：30 下校指導	11：30 下校指導	11：30 下校指導	13：15 下校指導

【1週目の留意事項】

- 一人一人が安心感を持ち，新しい人間関係を築いていくことをねらいとした時間を中心に指導する。
- 子どもがほっとする時間や空間を意図的に設ける。
- 学校生活の中で，絶対必要な場所やルール，危険な場所，安全な遊び方を教える。（トイレ，水道，個人の机，ロッカー，靴箱，物掛け，傘立て，校庭への行き方，遊具の安全な遊び方など）
- 子どもの興味や困り感を引き出す声掛けや環境構成を通して，子どもたちが「自分たちがしたいからしている」と思える流れを作る。子どもの主体性や意欲，自発性を大切にした指導を行う。「園ではどうしてた？」「どうしたらいいと思う？」などと問いかけ，子ども自身が考える場を作り，子どもの出方を待つことを心掛ける。

塩竈スタートカリキュラム 小学1年生4月週案モデル

第2週のテーマ：いよいよ勉強!自分で生活！

日	4月15日	4月16日	4月17日	4月18日	4月19日
曜	月	火	水	木	金
行事		身体計測 視力検査			
1	校庭で遊ぼう ドッジボールや鬼ごっこ などをして遊ぶ。	身体計測 視力検査	似顔絵をかこう 鏡を見ながら自分の似顔 絵を書き、友達と見せ合 う。	読み聞かせ 幼稚園や保育所で読んだ 絵本などを読んだり見た りする。	体育館で遊ぼう 体育館でリズムに合わせて 体を動かして遊ぶ。
	体育 1	学行1	国語0.5 図工0.5	国語1	体育0.5 音楽0.5
2	教材の使い方 教科書やノートの使い 方を知り、鉛筆で文字を書 く練習をする。	学校探検をしよう 前日探検した場所以外の 教室を見て回る。	春を書いてみよう 春を見つけようで発見し た花などをカードに書 く。	ならびっこ 背の順や席の順など様々 なパターンの並び方ゲー ムを行う。	学校の外を探検しよう 学校の周りを一周しなが ら散策する。
	国語1	生活1	国語0.5 図工0.5	体育0.5 生活0.5	生活1
3	学校探検をしよう 教師や友達と一緒に様々 な教室を見て回る。	春を見つけよう 校庭などで春の花や草木 を観察する。	粘土遊び 道具の使い方を知り自由 に制作活動を行う。	平仮名を覚えよう 平仮名順を発声したり書 いたりして覚える。	1～10の数 1～10までの数を覚え る。
	生活1	生活1	図工 1	国語1	算数 1
4	学校探検をしよう 出会った教師や職員に名 刺で自己紹介する。 給食準備	春を見つけよう 花や草木の数を数える。 給食準備	平仮名を覚えよう 平仮名を発声したり書い たりして覚える。 給食準備	1～10の数 1～10までの数を唱え たり書いたりして覚える。 給食準備	平仮名を覚えよう 給食準備
	生活0.5 国語0.5	算数0.5 生活0.5	国語0.5 生活0.5	算数0.5 生活0.5	国語0.5 生活0.5
給食	いただきます	いただきます	いただきます	いただきます	いただきます
清掃	6年生補助	6年生補助	6年生補助	6年生補助	6年生補助
5					
下校					

【2週目の留意事項】

- 一人一人が安心感を持ち、新しい人間関係を築いていくことをねらいとした時間として、学年で集まる時間を設定する。1学年に 関わる教職員が自己紹介し、「困ったときはどの教師に相談しても大丈夫」という安心感につなげる。
- 朝の読み聞かせや給食・清掃の手伝い、休み時間の遊びなど、6年生との関わりを1年生の安心感につなげる。
- 「教科書の写真」を用意して、一日の流れを確認する際に使ったり教科学習の時間に提示したりする。
- 黒板の前に集まって床に座る学習形態も取り入れる。板書の文字を少なくするよう心掛ける。
- 学校探検の際、「探検の約束」を子どもと相談して作り、子どもだけの探検を行うことで、子どもの主体性や自発性を高める。

塩竈スタートカリキュラム 小学1年生4月週案モデル

第3週のテーマ：係の仕事が始まるよ!～勉強も頑張ろう～					
日	4月20日	4月23日	4月24日	4月25日	4月26日
曜	土	火	水	木	金
行事	学習参観，P総会 2校時限	4校時限	家庭訪問	家庭訪問	家庭訪問 1年生を迎える会
1	リズム遊び 幼稚園や保育所で経験したリズム遊びなどを行う。	音読 国語の教科書をみんなで分担して音読する。	音読 国語の教科書をみんなで分担して音読する。	平仮名を覚えよう 平仮名順を発声したり書いたりして覚える。	1年生を迎える会
	音楽 1	国語1	国語1	国語1	児童会1
2	音読 国語の教科書を担当を決めて音読する。	平仮名を覚えよう 平仮名順を発声したり書いたりして覚える。	1～10の数 1～10までの数を唱えたり書いたりして覚える。	ならびっこ 背の順や席の順など様々なパターンの並び方ゲームを行う。	音読 国語の教科書をみんなで分担して音読する。
	国語1	国語1	算数1	体育0.5 生活0.5	国語1
3		1～10の数 1～10までの数を唱えたり書いたりして覚える。	図書室で本を読もう 図書室で好きな本を読んだり借りたりする。	1年生を迎える会練習 会の趣旨を知り並び方や挨拶を覚える。	こいのぼり作り 画用紙で素材を作り学級で一つのこいのぼりを作る。
		算数1	国語1	国語1	図工1
4		給食の準備をしよう 1年生だけで給食の準備を行う。	宿題を頑張ろう 宿題の目的や提出の仕方などを理解する。 給食準備	1年生を迎える会練習 給食準備	こいのぼり作り 給食準備
		生活1	学活0.5 生活0.5	学活0.5 生活0.5	国語0.5 生活0.5
給食		いただきます	いただきます	いただきます	いただきます
清掃		6年生補助	6年生補助	6年生補助	6年生補助
5				歌で仲良し 輪唱などゲームを交え楽しく歌ったりリズムをとったりする。	1～10の数 周りにある1～10までの物を探してみる。
				学活0.5 音楽0.5	算数1
下校	10：30				
【3週目の留意事項】 ○ 今、子どもにとって必要なことは何かを考えながら指導計画を組み立てる。 ○ 学校探検の経験を，教科の学習内容や人との関わりに広げていく。 図工：見つけたものを絵に表す 算数：数字→何階？何人？，時計→長い針が～までに教室に戻る 国語：見つけて話そう，楽しく聞こう，明るい挨拶 道徳：礼儀，規則尊重，公德心 上級生へのあこがれ，すごい！ 様々な先生方との出会い，挨拶，職員室や保健室などへの入室の仕方 ○ 小学校はチャイムや時間によって動いていること，～時間目という言い方，日課表の見方などを知る。					

塩竈スタートカリキュラム 小学1年生4月週案モデル

第4週のテーマ：いよいよ時間割が始まるよ!～宿題も頑張ります～					
日	4月30日	5月1日	5月2日	5月3日	5月4日
曜	火	水	木	金	土
行事	家庭訪問	家庭訪問，4校時限 交通安全教室	家庭訪問	憲法記念日	みどりの日
1	ならびっこ・かけっこ 様々な並び方ゲームと並 んだ順でかけっこをす る。	好きなものはなに？ 好きなものの絵を書いて 友達の前で発表する。	ならびっこ・かけっこ 様々な並び方ゲームと並 んだ順でかけっこをす る。		
	体育0.5 生活0.5	国語0.5 生活0.5	体育0.5 生活0.5		
2	音読 国語の教科書をみんなで 分担して音読する。	交通安全教室 交通事故の防止について 学ぶ。	音読 国語の教科書をみんなで 分担して音読する。		
	国語1	学行1	国語1		
3	平仮名を覚えよう 平仮名順を発声したり書 いたりして覚える。	グループ活動しよう グループで文字を探して 文を作るゲームを行う。	平仮名を覚えよう 平仮名順を発声したり書 いたりして覚える。		
	国語1	国語1	国語1		
4	いくつか 教師が見せたものの数を 数字で書く。 給食準備	いくつか 教師が見せたものの数を 数字で書く。 給食準備	いくつか 教師が見せたものの数を 数字で書く。 給食準備		
	算数0.5 生活0.5	算数0.5 生活0.5	算数0.5 生活0.5		
給食	いただきます	いただきます	いただきます		
清掃	6年生補助		6年生補助		
5	アサガオを育てよう 校庭でアサガオの種を植 える。		アサガオを育てよう 校庭でアサガオの種を植 える。		
	生活1		生活1		
下校					
【4週目の留意事項】 ○ 今，子どもにとって必要なことは何かを考えながら指導計画を組み立てる。 ○ 教科学習に落ち着いて取り組めるよう，丁寧に指導を行う。（時間を見て着席，机上の整理，姿勢，鉛筆の持ち方，話の聞き方など）個に応じた指導を心掛ける。 ○ 休日や早い時刻に帰る日が多いので，安全に過ごすための指導をしっかりと行う。 ○ 交通事故が最も起こりやすい時期であるので，事故防止のポイントを具体的に繰り返し指導する。					

塩竈市スタートカリキュラム

目次

No.	題 材	内 容	No.	題 材	内 容
1	呼ばれたら「はい」とお返事	学 習	1 9	避難訓練の前に	学 習
2	いろいろな挨拶	生 活	2 0	筆箱の中身	学 習
3	学習道具の出し方・しまい方	学 習	2 1	言葉遣い	学 習
4	廊下・階段の歩き方	生 活	2 2	発表の仕方と声の大きさ	学 習
5	靴の揃え方・傘の置き方	生 活	2 3	ありがとう ごめんなさい	生 活
6	上靴の履き方	生 活	2 4	水道の使い方	生 活
7	トイレの使い方	生 活	2 5	ハンカチ ・ ティッシュ ・ つめ	生 活
8	掃除の仕方	生 活	2 6	ぞうきん ・ ほうき ・ バケツ ①	生 活
9	話の聞き方・並び方	学 習	2 7	ぞうきん ・ ほうき ・ バケツ ②	生 活
1 0	学習のいろは	学 習	2 8	いろいろな結び方	生 活
1 1	給食の準備・食事・片付け	生 活	2 9	休み時間の過ごし方	生 活
1 2	着替えと片付け	生 活	3 0	友達をつくろう ①・名刺交換	学 習
1 3	プリントのしまい方	生 活	3 1	友達をつくろう ②・一緒に遊ぼう	学 習
1 4	鉛筆の持ち方	学 習	3 2	友達をつくろう ③・ごめんね	学 習
1 5	ならびっこ	学 習	3 3	友達をつくろう ④・また今度ね	学 習
1 6	遊具遊び	生 活	3 4	友達をつくろう ⑤・お助けマン	学 習
1 7	下校班の並び方	生 活	3 5	みんなが集まるところは、シーン	学 習
1 8	下校の歩き方・横断歩道の渡り方	生 活			

- 本カリキュラムは、幼稚園・保育所（園）と小学校との滑らかな接続を目的として、小学校生活を始めるに当たって、ぜひ身に付けさせたい内容を示しています。

■ 各校の実態に応じて、内容をアレンジしてご指導ください。

■ 一つの項目を必ず1単位時間で指導するものではありません。内容によっては、数回に分けて指導した方がよいものがあります。入門期の児童は、短時間の指導を繰り返し行った方が効果的な場合が多いことに留意して活用してください。



1 呼ばれたら「はい」とお返事

自分の名前を呼ばれたら、元気よく明るく返事をする。

子どもの姿・活動内容	教師の関わり
1 名前を呼ばれたら、元気よく「はい」と答える。 (1) 自分の名前を呼ばれたとき (2) 授業中の手の挙げ方 (3) 朝の健康観察	○ 日常的に自分の名前を呼ばれたら、「はい」と答えることを知らせる。 ・ 実際に「はい」と声に出して何回か練習する。 ○ 質問されて分かったときに、手を挙げて、指名されたら答える。 ・ 手は自分の耳の横にまっすぐに挙げ、手のひらを正面に向ける。左右どちらの手を挙げるのか、学校で統一する。 ・ 黙って手を挙げるか、「はい」と言う場合は1回にするか、など校内統一のルールに即して指導する。 ・ 起立して答えるときは、椅子を静かに後ろに引き、机の中に入れないでそのまま答える。(こちらも事情により、校内統一のルールで指導する。) ・ 見本を示したり拡大図を利用したりする。 ○ 朝の健康観察時に、自分の名前を呼ばれたら、手を挙げたまま「はい、元気です」などと言わせる。 ・ この場合、時間短縮を考えている。手を挙げたままで「はい」、手を下ろして「元気です」という方法もある。学校の実態に応じて行わせたい。
2 自己紹介しながら「はい」を入れたゲームをする。 (1) ゲームの方法を知る。	○ ゲームの説明をする。 ☆ 10分間で出来るだけ多くの友達と握手する。 ☆ 方法 ① 自由に歩いて友達を見付ける。 ② じゃんけんをして勝った人から、 A 「私の名前は～です。〇〇が好きです。よろしくお願いします。」 B 「私の名前は～です。〇〇が好きです。よろしくお願いします。」 ③ AがBに「～さん」 Bが「はい」と答え、BがAに「～さん」 Aが「はい」と答える。 ④ 二人で握手をして別れ、次の相手を求めて歩き出す。 ○ 例をもう一度示す。(実際にやってみせる)
(2) ゲームを楽しむ。	○ ルールに従ってゲームを行わせる。相手が見付からない子どもやルールが分からない子どもには声掛けをする。音楽があると効果的である。 ○ 時間配分は各実態に応じる。
3 まとめ	○ もう一度1-(1), (2), (3)の例を実際にやってみせて、学習のまとめとする。実際の場で実践できるように、繰り返し指導する。



2 いろいろな挨拶

朝や帰りの挨拶の仕方を身に付ける。

子どもの姿・活動内容	教師の関わり
1 朝の挨拶の仕方を知る。 	○ 朝起きてから、学校に来るまでに様々な人と挨拶を交わすが、その仕方を振り返る。 ① 友達と おはよう・・・おはよう ② 上級生と おはよう・・・おはようございます ③ 近所の人や先生と おはよう・・・おはようございます ○ 挨拶や礼の仕方は、様々あるが、基本的に「おはようございます。」と言ってから「礼」にしたい。 ○ ① 子どもと子どもの挨拶・礼の仕方 ② 子どもと先生の挨拶・礼の仕方 ○ （日直）おはようございます （全員）おはようございます 実際に何回かやってみる。 ○ （日直）さようなら （全員）さようなら 実際に何回かやってみる。 各学校、各学級の実態があるので、細かいところまでは示さないが、動作も含めたやり方を指導する。
2 帰りの挨拶の仕方を知る。	○ 学校から帰るときの挨拶の仕方を振り返る。 友達、上級生、近所の人、先生と・・・さようなら・・・さようなら
3 その他の挨拶を知る。	○ 普段の生活の中から、場面に合わせてどんなときにどんな挨拶をするか考えさせる。 ＜学校で＞ ・先生やお客様に会った・・・ こんにちは（礼）、さようなら（礼） ・職員室に入る・・・・・・・・ （ノック）失礼します ・教えてもらう・・・・・・・・ よろしくお願いします（礼） ・教えてもらった・・・・・・・・ ありがとうございました（礼） ＜自分の家や友達の家で＞ ・朝起きた・・・・・・・・ おはよう ・ご飯を食べる・・・・・・・・ いただきます ・学校などに出かける・・・・・・ いってきます ・帰った・・・・・・・・ ただいま ・寝る・・・・・・・・ おやすみなさい ・家を訪ねた・・・・・・・・ ごめんください、こんにちは ・家に入る・・・・・・・・ おじゃまします ・なにかごちそうになった・・・ ごちそうさまでした ・家を出る・・・・・・・・ おじゃましました、さようなら など
・実際に挨拶をしてみる。	○ 隣同士で、挨拶を交わしてみる。 挨拶をするとどんな気持ちになるかを考える。 ＊ うれしい。気持ちいい。もっと話したくなる。
4 元気な挨拶の仕方を知る。	○ どんな挨拶をすると気持ちよいのかを考える。 大きな声で 挨拶する相手の顔を見て 軽く礼をする おまけに笑顔
5 上記のことを意識して挨拶ごっこをする。	○ まずは「こんにちは」で練習する。 教師と 隣や後ろの友達と 周りの友達と 大きな声で 挨拶する相手の顔を見て 軽く礼をする おまけに笑顔

3 学習道具の出し方・しまい方

学習道具や用具をランドセルから机の中に、机の中からランドセルの中への出し入れなどについて学び，練習する。

子どもの姿・活動内容	教師の関わり
1 <朝・登校したら> (1) ランドセルの中から，学習用具・教科書・ノートなどを取り出す。 (2) ロッカーなどに入っている道具箱に学習用具・教科書・ノートなどを入れ，机の中にしまう。 (3) 空になったランドセルをロッカーにしまう。 (4) 上着，上靴入れなどは物掛けフックにかける。	○ どのように入れるとよいかを図などを使って示すことが大切である。 <机の中の例> 教科書やノート ふでばこ のり・はさみ等 ○ 1校時から順に重ねておく。終わった教科は，一番下へ入れて，次の教科を出す。 ○ ロッカーの中へランドセルをしまうが，同時にロッカーや物掛けフックの使い方も指導する。各学校により，ロッカーの形や大きさが異なるため，各学校での工夫が必要である。 <ロッカーへのしまい方の例> ランドセル 算数セット等，机の中に入れない物 鍵盤ハーモニカ等 <物掛けフックの例> 壁 上着 上靴入れなど 2 <下校前> (1) 机の中の引出しからランドセルの中へ，教科書・ノート・学習用具などをしまう。 (2) お道具箱をロッカーへしまう。 (3) 上着などを物掛けフックから机上に持ってくる。 ○ 鉛筆や定規は，筆箱にしまってから，ランドセルに入れる。筆箱を入れるところなどは各校の約束に沿ってしまわせる。 ○ お道具箱はロッカーへしまわせ，机の中は空にさせる。 <机上・荷物の置き方例> ランドセル  手提げ袋  3 まとめ ○ 物の置き場所を確認しても，自分でできるようになるまでは，教師の声掛けが必要である。

4 廊下・階段の歩き方

廊下や階段では、右側を歩き、安全で安心な学校生活を送る。
ルールを守る。

子どもの姿・活動内容	教師の関わり
1 進行方向に向かって右側を歩く。 <廊下> - よそ見をせずにまっすぐに歩く。 - 友達と話しながら、横並びにならない。 - 大声を出して歩かない。 <階段> - 走って下りたり、登ったりしない。 - 一段抜かしをしない。 - 途中から飛び降りない。 - 階段の手すりを滑って下りない。 - 前の人を押さない。	○ 廊下や階段では静かに歩く。公共の場なので、おしゃべりをしないことも注意する。 ○ 歩かせるチームと、それを見ているチームに別れ、それぞれに感想を言わせる。 ← ○ ○ ○ ○ (歩く人) ● ● ● ● (見ている人) ○ 参考に、普段の休み時間の歩き方を撮影したビデオを見せてもよい。 ○ 静かに歩かせるには、教室を出るときがポイント。ドアのところで止まって安全確認したりドアをきちんと閉めて出たりするなど、一度止まる動作を入れるとよい。
2 実際に廊下を4人組などで歩く。 * は さ み 歩きの実践 し わ ぎ ら が が な な わ い い	○ 参考に、普段の休み時間の歩き方を撮影したビデオを見せてもよい。 ○ 静かに歩かせるには、教室を出るときがポイント。ドアのところで止まって安全確認したりドアをきちんと閉めて出たりするなど、一度止まる動作を入れるとよい。
3 階段を安全に使う。	 ○ 実際に階段の右側を静かに歩かせる。 【上がる】 - 一段一段をよく見る。 - 一段抜かしをしない。 【下りる】 - 一段抜かしをしない。 - 途中から飛び下りない。 - 階段の手すりを滑って下りない。 - 前の人を押さない。 ○ 途中の踊り場で遊ばない。遠回りでも必ず右側を歩く。
4 廊下や階段での歩き方のまとめ	○ 大勢の人が行き来するので、遊んだり大声を出したりしないようにする。狭い場所なので、走るとぶつかってけがをすることを理解させる。

5 靴の揃え方・傘の置き方

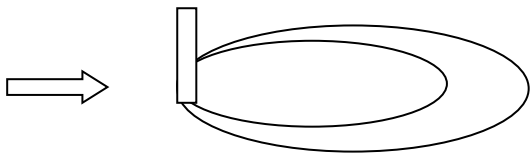
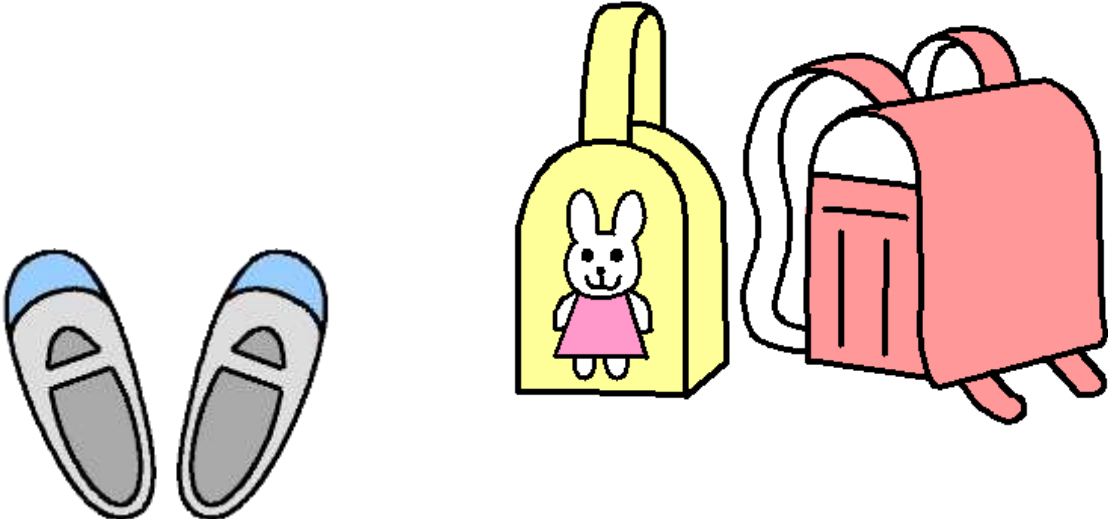
自分の靴箱にかかとを揃えて靴を置く。

他の傘にぶつからず取り出しやすいように、傘は巻いて止めるようにする。

子どもの姿・活動内容	教師の関わり
1 靴箱の中に靴を揃えて入れることを学ぶ。 (1) 靴を履き替えて校庭で遊ぶ。 (2) 合図で校舎に入る。 (3) 靴の入れ方を確認する。	○ 自分の靴箱の中に自分の靴を入れる。無造作に入れるのではなく、縁のラインを目安にかかとを揃えて入れさせる。 ○ 昇降口の靴箱で外靴に履き替えてから、校庭で少し遊ばせ、靴箱に戻る。その際、入れた靴の様子を確認させると一連の流れとして指導できる。靴の履き方にも気を付けさせる。 【靴の履き方】 ・ 立って靴を履く。(床に座って履く子どももいるが、周りの子どもの迷惑になるので、立って履くように指導する。) ・ かかとまでしっかり靴に入れる。かかとをつぶしたまま履かない。 【靴の脱ぎ方】 ・ 昇降口では、前向きに靴を脱ぎ、片方の手で、両方の靴の内側同士を挟んで持つ。 【靴箱の入れ方】 ・ つま先を奥に向けて入れる。 ・ かかとは靴箱のふちに合わせると、見やすく取り出しやすい。 手前 × ○ △ ・ 靴箱の上段に上靴を入れ、下段に外靴を入れる。 上靴 外靴 ・ 靴を靴箱に入れるときは、友達を押したり、むやみに急がせたりせずに、順序よく前の友達を待って入れるようにさせる。
2 傘の置き方を知る。	○ ここでは教師が手本を示し、代表の子どもがまねる程度にとどめておく。雨の日や何本か傘が用意できる場合は、全員に置き方を体験させても良い。 ○ 雨が降っている日にもう一度指導することが大切である。 【傘の置き方】 ・ 傘をくるっと巻いて、ボタンやマジックテープで止める。 ・ 決められた場所に立てる。 ・ レインコートは、水を切って決められた場所に置く。(傘立てには置かない。) 
3 まとめ	○ 雨の日は持ち物が多くなり、その整理整頓に気を付けさせたい。 ○ 雨天時に履いてきた長靴などが靴箱に入らない場合は、靴箱の上に置いたり折って入れたりさせるなど、各学校のルールに基づいた対応を教える。

6 上靴の履き方

上靴を正しく履き，学校生活を安全に送ることができる。

子どもの姿・活動内容	教師の関わり
1 自分の上靴を見て，どんな履き方をしているか振り返る。	○ どうして上靴を履くのか，どんな履き方がふさわしいのかを考えさせる。 【目的】 - 足を傷つけるものから足を守る。 - 足や校舎内が汚れないようにする。 【履き方】 - かかとまで靴の中に入っている。 - 右と左を間違えないで履いている。 - 足を安定させるゴム（靴紐，マジックテープ）の部分がきちんと留まっている。
2 正しい履き方を学ぶ。 （1） 上履を床に置く。 （2） 足を片方ずつ入れる。 （3） かかとのつまみを引く。	○ その場で練習させる。 ① 静かに左右を揃えて床に上靴を置く。 ② ゆっくりと片方の足から入れる。 ③ 両方の足が入ったら，つま先で足をトントンして整える。 ④ 最後に，かかとのつまみを引っ張って，形を整える。（つまみがある場合）
3 靴箱に行き，外靴から，上靴に履き替える練習をする。 （1） 外靴を脱ぐ。 （2） 外靴を持つ。 （3） 靴箱に入れる。 （4） 上靴を持ち，静かに床に置く。 （5） 練習通りに上靴を履く。	○ 一旦，気分転換を図るために，外で自由に遊ばせてから，靴を履く練習をする。 * 靴箱周辺が混み合う場合は，順番に靴箱に入れさせるか，廊下まで上靴を持って行って履かせるなどの工夫をする。 ① 前を向いて靴を脱ぐ。 ② 後ろを向いて靴を持つ。 ③ かかとを揃える。 ④ 床に上靴を静かに置く。 ⑤ かかとのつまみを引っ張る。 
4 上靴を袋に入れて持ち帰る練習をする。	○ 上靴を脱いで，上靴入れに入れることも，一連の流れとして行いたい。 ① 上靴を脱いだら，靴の底を合わせる。 ② つま先（もしくは，かかと）を袋の底に向かって入れる。 

7 トイレの使い方

トイレにいつ行くか、行き方やトイレの使い方について学ぶ。

子どもの姿・活動内容	教師の関わり
1 トイレの使い方を知る。 (1) トイレに入る。 (2) 使用する便器に行く。 (3) 用を足す。 (4) 手を洗う。 (5) 注意点を確かめる。	○ 幼稚園や保育所(園)との建物の違いからトイレに行くことに戸惑う子どもがいることが考えられる。男子・女子のトイレに連れて行き、注意点を伝える。 男子 (小便器) - 便器の前の方に構える。 - 小便を便器の外にこぼさないようにする。 - 用を足したら、ボタン(レバー)を手で押し、水を流す。 女子 (和式) - 便器の前の方に構える。 - ペーパーは2〜3巻き程度に切り、無駄に使わない。 - 用を足したら、ボタン(レバー)を手で押し、流れたのを確かめる。 (洋式) - 個室には一人ずつ入り、鍵を閉める。 - 便器の蓋を開け、便座にしっかり腰掛ける。 - ペーパーは2〜3巻き程度に切り、無駄に使わない。 - 用を足したら、ボタン(レバー)を手で押し、流れたのを確かめる。 - 便器の蓋を閉じて元に戻す。 - 便器の蓋の上には上がらない。
2 授業中にトイレに行きたくなった場合について知る。 (1) トイレに行くとき (2) トイレの行き方 (3) 練習する。	○ トイレを使用した後は、必ず手を洗うことを指導する。このとき、自分のハンカチなどで手を拭くことと、またポケットにしまうことを一連の動作として行うことができるよう指導する。 ○ 便器を汚してしまった場合はそのままにせず、必ず教師に伝えることを確認する。 ○ 基本的にトイレは休み時間に済ませておく約束を確認するが、どうしても授業中に行きたくなくなった場合の行き方について触れる。 【授業中にトイレに行きたくなくなった場合】 - 黙って立って、担任の教師の側に行く。 - 小さな声で「トイレに行ってきてもいいですか」と言う。 - 教師の指示に従ってトイレに行く。 【トイレの行き方】 - 教師の許可が出たら、静かに後ろのドアから出てトイレに行く。 - 用を済ませたら、静かに後ろのドアから入り、自分の席に戻る。 ○ 数名の子どもに、実際にやってもらう。
3 まとめ	○ 子どもたちと以下のポイントを確認し、本時の学習を振り返る。 - 教師から促されなくても、自分からトイレに行く。 - 次に使う人のことを考えて使用し、間違っ汚してしまった場合は必ず教師に伝える。 - トイレは基本的に休み時間に済ませる。 1日の中である程度、自分で「いつ行くのか」を決めておくとい。 (例：業間休み、昼休み、帰りの会の前など) - 用便後は必ず手を洗い、自分のハンカチで拭く。(ハンカチはポケットに入れて持ち歩く)

8 掃除の仕方

自分たちが使う部屋や場所を自分たちできれいに掃除できるようにする。

子どもの姿・活動内容	教師の関わり
1 掃除の時間について知る。 2 身支度を整える。 3 掃除用具の名前と使い方を 知る。 (1) 掃除道具の名前を知る。 (2) 掃除用具の上手な使い方、 使うときの約束を知る。	○ 決められた時間の中で「身支度」「掃除」「後片付け」を確認することを確認する。 ○ 掃除用エプロンに着替えたら、静かに座るよう指示する。おしゃべりなどせず、集中して掃除を行う気持ちを高める。 ○ なるべく子どもたちの人数分の用具を用意したい。 自在ぼうき - 両手で持ち、真っ直ぐ前に進みながら掃く。 - ほうきの先は止めながら掃き進め、ごみをまき散らさないようにする。 - ほうきの先に足を乗せて、毛先をつぶさない。 - ほうきの先に付いた埃やゴミを、毛掻き棒で掃除してから片付ける。  バケツ - 水は半分程度まで入れる。 2人1組で持つ。 - 使い終わった水は、雑巾用の深い流しに捨てる。 - 中をさっとすすいでから片付ける。  小ぼうき・ちりとり - 自在ぼうきで集めたごみを、小ぼうきとちりとりを使って取る。 - 落とさないようにゴミ箱に捨てる。  雑巾 - バケツの中に雑巾を入れ、両手で洗う。 4つに折りたたみ、両手でねじるようにして固く絞る。 - 開いて雑巾かけに並べて干し、洗濯ばさみで止める。 
4 教室掃除の仕方を知る。 5 後片付けを行う。 6 掃除の振り返りを行う。	○ 実際に清掃しながらの指導になるが、その前に簡単な流れを説明しておく。 各校の掃除方法に合わせて行う。 ○ 掃除用具は掃除ロッカー内にきちんとしまい、掃除エプロンは畳んで袋に戻して片付けることを指導し、きちんとできているか確認する。 ○ 道具を正しく使い、協力し、集中して掃除ができたか確認する。

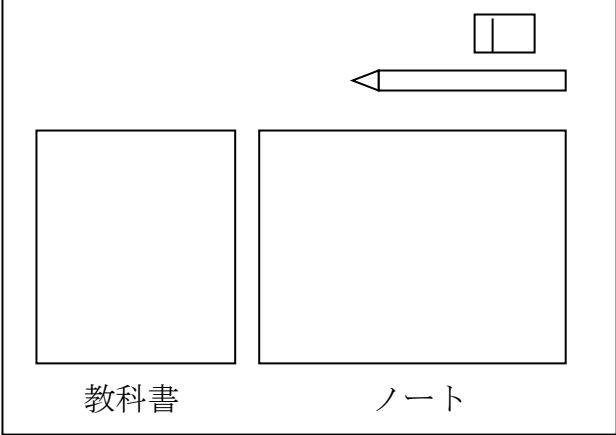
9 話の聞き方・並び方

人の集まる所では静かにし、話をしっかり聞くことができる。（学年集会など）

子どもの姿・活動内容	教師の関わり
1 学年で集まったとき，学校全体で集まったとき，どうすることが大切か考える。	○ 集会などで学年や全校児童が集まる時は，話を聞くことが前提にあることを理解させる。
2 疑似体験を通して，どちらが話の聞き方としてよいのか理解する。	○ 一人一人が勝手なおしゃべりをしていたのでは，話が伝わらないことに気付かせる。その上で，話を聞くときには口を閉じ，話す人を見て聞くことが大切であることを体験させる。
(1) 体験①	○ みんなで二通りの方法をやるよう指示する。
(2) 体験②	【疑似体験①】勝手なおしゃべりあり ・ 体育館（集合場所）に入るとき，自由に話しながら入る。 ・ 集まってからも，周りの人と好き勝手に話す。 ・ 教師が「静かにしましょう」と言い，列の乱れも直す。その後話を聞く。
(3) まとめ	【疑似体験②】勝手なおしゃべりなし ・ 体育館（集合場所）に入るとき，口を閉じ，静かに入る。 ・ 集まってからも，周りの人と話さず，黙って待つ。 ・ 教師が前に立つと，一斉に顔を上げて話を聞く。
3 並び方について学ぶ。	○ 2つの体験を比較させ，話を聞くために集まったときにしなければいけないことを確認する。 ・ おしゃべりをしない。 ・ 口を閉じ，顔を上げて，話す人を見て話を聞く。
4 本時のまとめをする。	○ いくつかの並び方を紹介する。 ① 男女別々に背の高さ順で1列（男子1列・女子1列・計2列） ② 男女別々に背の高さ順で2列（男子2列・女子2列・計4列） ○ 自分の前後の友達を確認したり，自分が前から（後ろから）何番目なのかを確認したりさせる。
	○ 自由に遊ばせた後「集合」の号令をかけ，クラス毎に2列（4列）に並ぶ練習を行う。
	※ この時間以外にも，体育の学習時間などを使い，①②の並び方や，名簿順の並び方なども紹介したい。また，「休め」の姿勢で話を聞く方法も指導する。
	○ 集会などで学年が集まる時は，おしゃべりをしない。 ○ 素早く整列をする。 ○ 話は「耳で聞く・目で聞く・心で聞く」

10 学習のいろは

机上の用具の揃え方・立ち方・椅子の座り方の基本型を身に付ける。

子どもの姿・活動内容	教師の関わり
1 机上の学習用具の置き方を学ぶ。 (1) 順番に机の中の道具箱から出す。 (2) 順番に机の中の道具箱にしまう。 2 机と椅子の間隔の取り方や、椅子の座り方について知る。	○ 学校ごとに作成されている「学習スタンダード」を基に指導する。 - 筆箱から鉛筆・消しゴムだけを出し、机上右上に置く。 - 消しゴムで鉛筆が転がり落ちるのを防ぐ。 - 教科書は手の平でしっかり折り目をつけ、左手側に置く。 - ノートには必ず下敷きを挟む。 - ノートの上に重ねるように、左側に教科書を置く。  教科書 ノート ○ No.3「学習道具の出し方・しまい方」参照。 ○ 実際にさせてみて、きちんとできているかどうか確認する。 【椅子の座り方】 ① 椅子の4本の足を床にきちんと着ける。 ② 自分の足も床に着ける。 ③ 椅子に深く腰掛け、背もたれに沿って腰骨を立て、背筋を伸ばす。  【机と椅子の間隔の取り方】 ① 机と自分の体との間に、握り拳が縦に一つ入る位の間隔を空ける。  ○ 実際にさせてみて、きちんとできているかどうか確認する。 【手の挙げ方・返事の仕方】 - 分かったら、指先を伸ばしてまっすぐに手を挙げる。 - 指名されたら「はい」とはっきりとした声で返事をする。  【立ち方】 - 椅子を引き、横に立って発言する。椅子は机の中に入れない。  ○ 手の挙げ方、返事の仕方、立ち方のきまりは全校で統一されているものであることを伝え（学習スタンダード）、しっかり覚えようとする意欲を高める。

11 給食の準備・食事・片付け

マナーを守って時間内に楽しく食べることができるようにする。

子どもの姿・活動内容	教師の関わり
1 給食の時間について知る。 ・ 準備＝15分 ・ 食事＝20分 ・ 片付け＝10分 ※ 歯磨き＝3分 2 準備について知る。 3 配膳について知る。  4 給食をいただく。 (1) 挨拶 (2) マナーを守って食事 5 片付け方を知る。 	○ 45分間で「準備」「食事」「片付け」をすることを確認する。 ◎ 給食の班、準備や役割、片付け等、初めは教えたり決めたりすることがたくさんある。学年会等で話し合い、給食に関するルールをまとめておくといよい。また、学校によって決められた方法がある場合は、それに従って行う。 ○ 準備 ① 4～5人の班を作る。 ② 手を石けんで洗う。 → ※洗い方の指導 ③ 身支度や準備を行う。 (給食当番) 身支度を整え、整列する。(給食着・帽子・マスク) (配膳台当番) 配膳台を並べ、バケツと雑巾を用意して、配膳台やみんなの机をきれいに拭く。 (当番以外) 席に座って静かに待つ。 ④ 当番は配膳室に食器や給食を取りに行く。 ⑤ 配膳台の上に、食器や給食を並べ、配膳の準備をする。 ○ 配膳 ① 当番の子どもは、教師や支援員（保護者ボランティア含む）と一緒に、配膳の仕方を教えてもらいながら行う。 ② 当番以外の子どもは、静かに並び、給食を受け取る。やけど等に注意して席に戻る。 ③ 当番の子どもや教師の給食を誰が受け取るかは、クラスの約束を作っておく。 ④ 配膳が終わったら、当番は給食着を脱ぎ、袋に戻して片付ける。 ○ 食事 【挨拶の例】 ・ 「給食は全部揃っていますか。お盆の上の置き場所は合っていますか。」 ・ 「給食当番さん、ご苦労様でした。」 ・ 「いただきます。」 ※ 簡単に献立を紹介してもよい。 【マナーの例】 ・ 大声を上げない。 ・ 一種類ずつ食べない。(主食→おかず→汁物のように順番に食べる「三角食べ」) ・ 味わって静かに食べる。 ・ 食器は優しく扱う。(たたいたりしない。) ・ 「ごちそうさま」をするまで立ち歩かない。 ・ 苦手な物も、一口は食べてみる。 ・ おかわりは学級のルールを守る。 ○ 片付け 【挨拶の例】 ・ 「手を合わせてください。」 ・ 「ごちそうさまでした。」 ※ 感謝の気持ちを込めて、挨拶をさせる。 ※ その後、歯磨きなど各学校の実態で行う。 ① 給食当番→配膳台当番→当番以外の順に片付ける。 ② 給食当番は自分が配膳したものの側に付き、片付けを行う。 ③ 給食当番は、給食室（コンテナ）に食器類を返す。 ④ 配膳台当番は、配膳台とみんなの机を拭いた後、バケツと雑巾を片付ける。

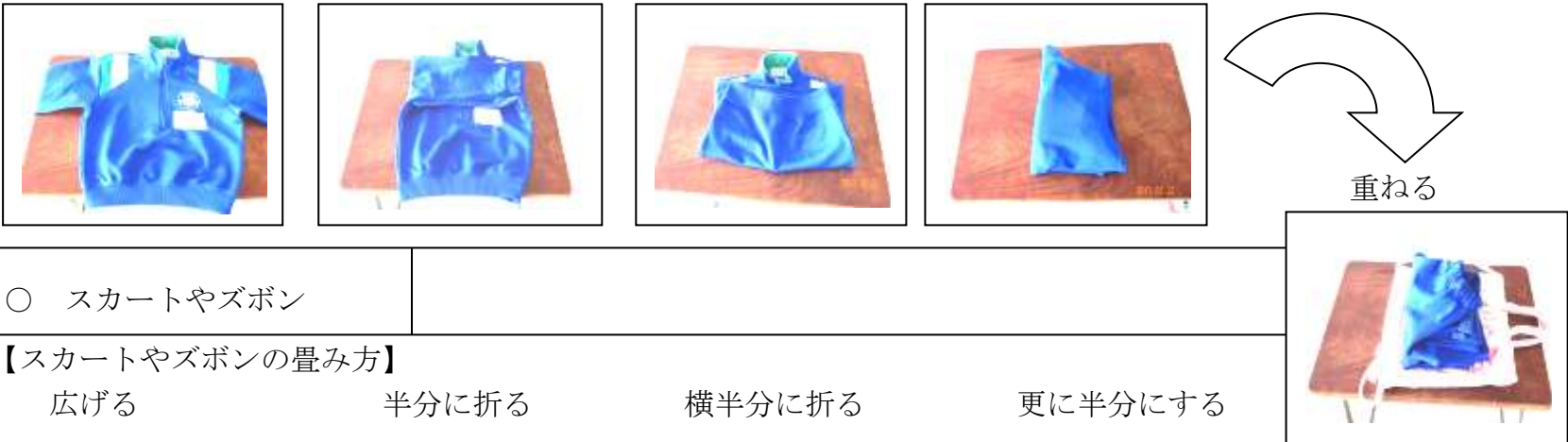


配膳例



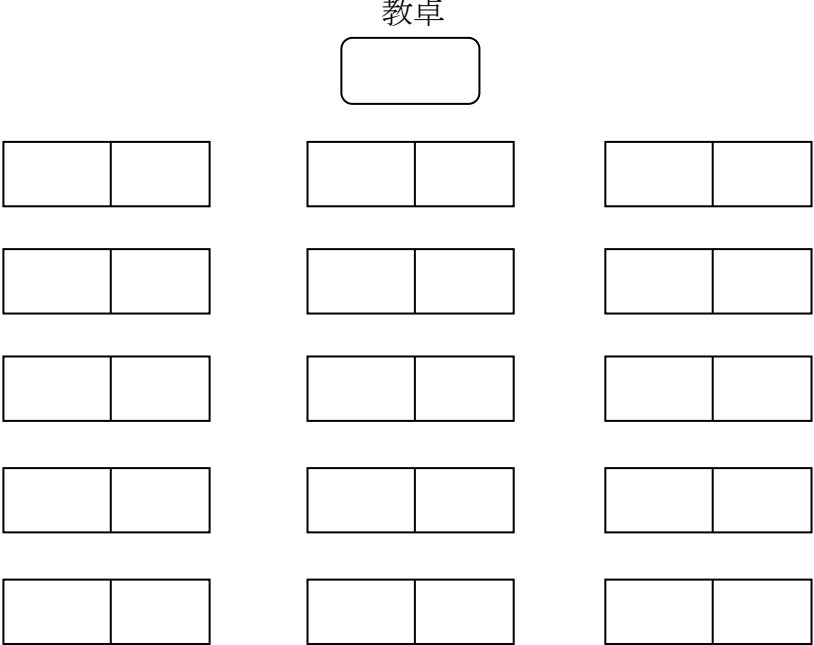
12 着替えと片付け

素早く着替え，脱いだ衣服の片付けや整理をすることができる。

子どもの姿・活動内容	教師の関わり
1 着替えについて確認する。 2 手順を確認しながら着替えを行う。 (1) 着替えるものを出す。 (2) 脱いだものを畳む。 ○ シャツやトレーナー	○ 幼稚園や保育所(園)等で行ってはいるが，小学校での着替えの場面との違いを確認させる。 ① 着替えの回数が多い。(体育・給食・掃除・水泳・健診など) ② 決められた時間内で行わなければならない。 ③ 脱いだ衣服の管理を自分一人できちんとしなければならない。 ④ 自分の席だけで行わなければならない。 ○ 実際に着替えが必要な時に，一斉に指導する。 ○ 袋の中からそっと出し，机上に置く。
【上着類の畳み方】 広げる 袖を内側に入れる 更に縦半分にする 更に横半分にする  ○ スカートやズボン	
【スカートやズボンの畳み方】 広げる 半分に折る 横半分に折る 更に半分に折る 	
(3) 着替える。 (4) たたんだら，しまう。 (5) 元の服に着替える。	○ 畳んだものは，上に重ねていく。 ※隣の子どもの机にはみ出さないように，注意させる。 ○ 畳んだものは，「机の上」「椅子の上」「〇〇袋の中に入れる」など，約束を決めておく。戻ってきて，またすぐ着替える場合は「〇〇の上」の方が手際よくいく。 ○ (2)～(4)と同様に行うが，最後は袋やバッグなどにしまわせ，片付けさせる。 ※他の子どもの服を袋に入れないように，注意させる。 ○ 着替えの時の約束を確認する。 ・ 1で確認した①～④に加え，着替えの時に開放感からはしゃぐことのないよう，マナーを守ることの大切さについて触れる。
3 友達のものや自分のものを区別できるように，記名を確認する。 4 まとめ	○ ある程度着替えがスムーズにできるようになったら，時間を意識して素早く行うことができるように指導する。

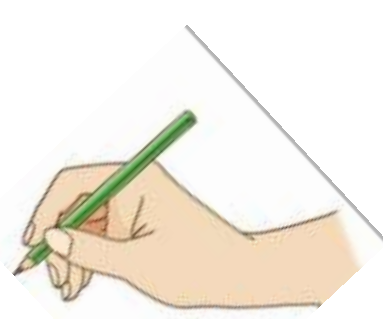
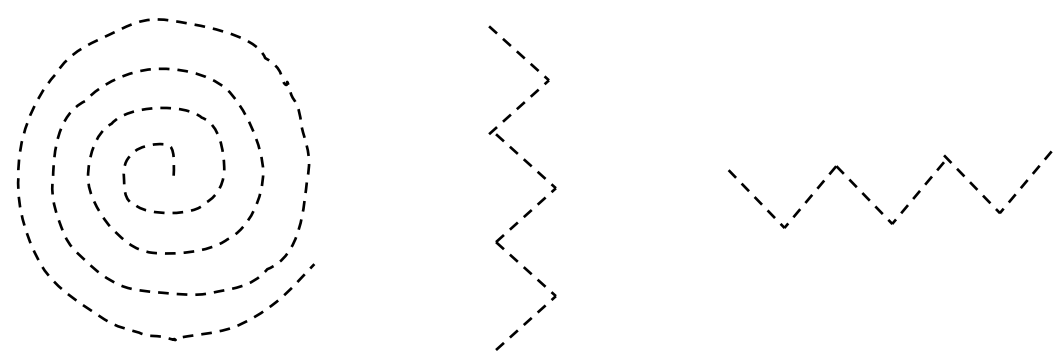
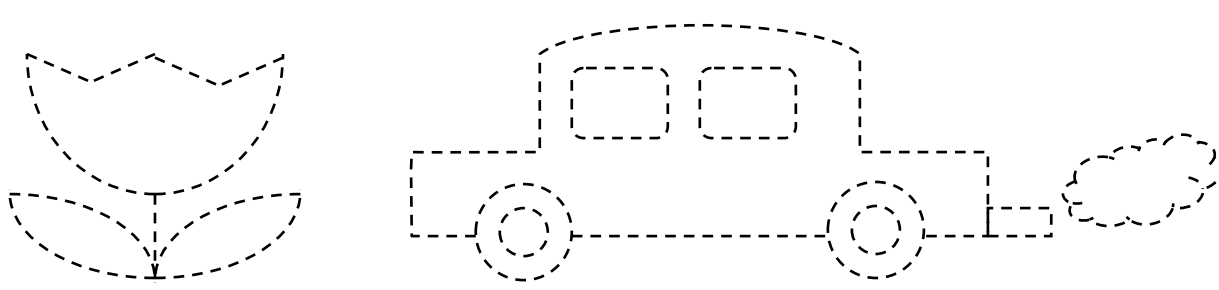
13 プリントのしまい方

自分に配られたプリント類を早く、きちんとしまうことができる。

子どもの姿・活動内容	教師の関わり
1 手紙やプリント類を全員に素早く確実に配るようにはどうするか考える。 (1) 自分のものを1枚取り，残りを後ろの人に渡す。 (2) 言葉を交わす。	○ 様々な方法があると思われるが，ここでは，列の一番前に座っている子どもに列の人数分を渡し，後ろへ回していく方法を取り上げる。 教卓  「はい，どうぞ。」 「ありがとう。」 - プリントは両手で持ち，体を外側にひねって後ろ向きになる。 - 前の人は後ろの人へ「はい，どうぞ。」と言って渡し，後ろの人は前の人に「ありがとう。」と言って受け取る。次の人も同じように渡して，一番後ろまで回す。
2 手紙やプリント類をきれいに折る。	○ 紙を折ることはすでに経験があると思われるが，もう一度確認する。 - 角を揃えて半分に折る。手紙や文書などは，文面が見えないように折るのが基本だが，一目で何に関する手紙か分かるように，文面を外にして折らせる方法もある。 - 複数枚ある場合は，1枚ずつ折らせた方がきれいに折れるが，時間を要するので，慣れてきたら2～3枚揃えて折ることもさせたい。
3 連絡帳入れに手紙やプリント類を入れる。	○ 折ったら連絡帳入れに入れさせる。手先の器用さによって速い遅いの差が出てくるが，少しずつ時間を気にしながら作業できるようにさせたい。
4 隣同士で確認する。	○ 紙を折ったり連絡帳入れに入れたりするのが面倒になり，机やランドセルの奥にそのまま押し込んでしまわないよう，互いに確認させる。 ※ 家に帰ったら家の人に手紙やプリント類をすぐに見せることを声掛けする。保護者にも毎日連絡帳入れを確認してもらうよう依頼する。 

14 鉛筆の持ち方

鉛筆や箸を正しく持って、使うことができる。

子どもの姿・活動内容	教師の関わり
1 正しい鉛筆の持ち方を知る。 2 正しく鉛筆を持つ。	○ すでに間違った鉛筆の持ち方に慣れてしまっている子どもがいると思われる。もう一度、1年生のスタート時点で正しい持ち方を確認する。 ※ 箸の持ち方は、時間的余裕があったら扱う。 ○ 様々な指導の仕方（方法）が考えられる。 ※ 右利きの場合の一例。 A ① 鉛筆の先を右に向けて机に置き、削ってある部分の少し左を親指と人差し指で軽くつまむ。「パクッ」 ② 鉛筆を回転させる。「クルッ」 ③ 鉛筆を人差し指にそわせる。「ピタッ」 ④ 中指を軽く曲げて鉛筆につけ薬指と小指を自然にそえる。 B ① 鉛筆の上を左手で持つ。 ② 右手は親指と人差し指でチョキの形を作る。 ③ 親指と人差し指の頭同士でパクパクさせて、左手の鉛筆をパクンとつまませる。 ④ 右手でつまめたら、最後に中指をはじくように鉛筆に当てる。 ○ チェックするポイント ・ 親指と人差し指はくっつかない。 ・ 鉛筆は斜めに傾け、親指と人差し指の間を枕にする。 ・ 親指が人差し指の上にこない。 ・ 中指が鉛筆の上に乗らない。 ☆ 見本を示したり拡大図を利用したりして指導する。  ○ 正しい持ち方ができたら、線をなぞったり自由に絵を書いたりさせる。  
3 線を書いて鉛筆の持ち方に慣れる。	
4 箸の持ち方に挑戦する。	○ 鉛筆を使って指導を行う。子どもの実態によっては、実際に箸を用いてもよい。 ・ 鉛筆を2本使い、箸に見立てる。 ・ 1本の鉛筆を持ち、もう1本を人差し指と親指の輪に下から鉛筆を入れ、中指の下に来るようにしてバランスを取る。 ○ 何度か練習させ、感覚を覚えさせる。

15 ならびっこ

様々な集合の仕方や並び方をすることができる。

子どもの姿・活動内容	教師の関わり
1 どんなときに並ぶかを考える。 ・ 朝会 ・ 体育 ・ 集団下校 ・ 健康診断（出席番号順） ・ その他 2 1であがった並び方を実際にやって覚える。 	○ 目的に応じて様々な並び方で集合することがあることを理解させる。 ○ 1年生なので、基本的で学校生活の様々な場面で活用できるものを扱う。 ① 朝会 台 女○ ●男 小 大 背の順 ② 健康診断（出席番号順） <前> 女○ ●男 小 大 番号の順 ③ 4列縦隊 教師 女子 男子 ① ① ② ② ③ ③ ④ ④ ⑤ ⑤ ⑥ ⑥ ○ ○ ● ● ③ 4列縦隊 教師 女子 男子 ①② ①② ③④ ③④ ⑤⑥ ⑤⑥ ○● ○● ④ 下校班（実際の集合場所に行く） △ □ ○ ☆ ◇ ○ ①から④まで紹介しているが、実際はこの中からいくつかを選んで指導する。一度では子どもが混乱するので、何回かに分けて指導する。 ～練習～ ・ はじめに自分の前後の友達の顔を覚えさせる。 ・ 前から（後ろから）何番目かを知るために、前から順に番号を言わせる。 ・ 前後や順番を覚えたら、2～3分くらい自由に歩き回らせ、笛の合図で練習のように並ばせる。 ～練習～ ・ 1列で並ばせ、偶数番号の子どもは帽子の色を変える。 ・ 偶数の子どもは、前の子どもの一歩右横に出る。 ・ 動きを覚えたら、1列に戻ったり、右向け右などで向きを変えたりする練習を行なう。 ・ 班長を決め、揃ったら座るように約束を決めておく。

16 遊具遊び

校庭にある遊具の安全な使い方を知り、順番を守って使うことができる。

子どもの姿・活動内容	教師の関わり
1 校庭の遊具について知る。	○ 校庭には様々な遊ぶ道具があることを知らせ、それを使うルールもあることを分らせる。 ※ のぼり棒、うんてい、ブランコ、滑り台、ジャングルジムなど
2 ルールについて知る。	○ 楽しく遊ぶために守った方がよいことを考えさせる。 ・ 順番を守る。 ・ 危ないことはしない。 ・ 遊んでいる遊具の周りに人がいないことを確かめる。 ・ 遊んでいる友達にいたずらをしない。 ・ フードなど引っかかりやすいものが付いた服を着て遊ばない。 など
3 校庭で、実際に遊具を使って遊ぶ。	○ 体育の授業で扱う場合は、体育着に着替えさせる。生活科で扱う場合は、普段着でもよい。（スカートなどは、その時の判断で着替えたりさせる。） ○ No.1 5「ならびっこ」で学んだことをもとに、並び方の指示をする。
(1) 外に出て並ぶ。 (2) 校庭にある遊具を順番に、実際に使って遊ぶ。	 ○ 遊ぶ前に必ず、約束事を教師が確認する。 ○ 全ての遊具を体験させる。遊具によっては、怖がって遊べない子どももいるので、無理はさせない。 ○ 順番を待つときは、友達の様子をよく見て、安全を確かめさせる。
(3) 自分の好きな遊具を使って遊ぶ。	○ 再度約束を確認し、それぞれの遊具に集まった友達同士で、仲良くルールを守って遊ばせる。 ○ 安全に仲良く遊ぶことは、楽しいことを体感させる。 ○ 時間を決め、時間になったら（時計の長い針が○になったら）慌てずに遊びをやめて集合するよう伝える。
4 休み時間の約束を確認する。	○ 休み時間には、つい遊びに夢中になり、途中で止められない子どももいると思われる。しかし、チャイムが鳴ったら（時間になったら）、途中でも止めて教室に入ることをしっかり約束させる。 ・ 校庭では、昇降口まで走ってよい。 ・ 校舎内では静かに歩いて教室に戻る。 ○ けがをしてしまったら、友達と保健室に行き、保健室の教師に見てもらう。一緒に行った友達は、連れて行った後に担任の教師に知らせに行くことを教える。

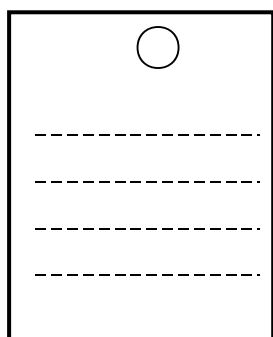
17 下校班の並び方

学校から家に帰るとき、学年の下校班で帰ることが分かり、その並び方ができる。

子どもの姿・活動内容	教師の関わり
1 教室での帰りの会が終わったら、学年の下校班で帰ることを知る。	○ 下校の仕方や約束を確認する。 ・ 幼稚園や保育所(園)と違い、家の人が学校まで迎えに来て一緒に帰るのではなく、自分たちで帰る。 ・ 自分たちで交通ルールを守り、安全に帰る。 ・ いずれは友達と帰るが、学校生活に慣れるまでは、しばらく集団下校をする。 ・ 教室から出たら、決められた集合場所で待つ。 ・ 同じ方向の友達と帰るので、他の学級の友達も一緒に並ぶ。 ○ 待ち方について知る。 ・ 決められた集合場所に行き、自分の下校班の列に並び、座って待つ。 ・ 班長は、揃ったら教師に知らせる。 ・ しゃべらないで、静かに待つ。 A ☒ ☐ ☐ ☐ ☐ B ☒ ☐ ☐ ☐ ☐ C ☒ ☐ ☐ ☐ ☐ D ☒ ☐ ☐ ☐ ☐ E ☒ ☐ ☐ ☐ ☐ F ☒ ☐ ☐ ☐ ☐ ○ 班長が人数やメンバーを把握していないこともあるので、教師または、それぞれの班の担当者は、名簿などで確認するとよい。
2 学年で帰りの会をする。	○ 全ての班が揃ったら、学年で帰りの会を行う。 ・ 教師の話（本日のまとめと、明日の予定など） ・ 交通安全の指導（一列歩行、横断歩道の渡り方など） ・ 帰りの挨拶
3 下校する。	○ 当初は、途中まで、あるいは一番遠い家まで送っていく。 ○ 子どもの通学路や自宅を確認したり、危険箇所を把握したりする。

工夫あれこれ

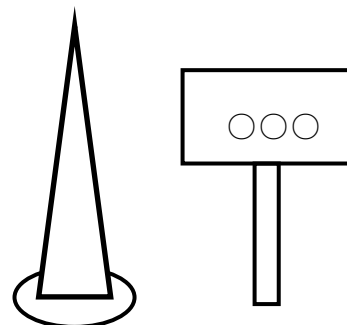
班員の名前を書いた札
(班長が首に掛けたり
してもよい)



名札に下校班の色別シールを貼る。



班のプラカードや三角コーンを用意する。



班の色の旗を用意する。
(番号, コース, 地区名
などを記入してもよい)



18 下校の歩き方・横断歩道の渡り方

学校から家に帰るとき，下校班で帰ることが分かり，安全な歩き方が分かる。

子どもの姿・活動内容	教師の関わり
1 毎日下校時に安全に歩いているかを振り返る。 2 2班に分かれ，体育館などで実際にやってみる。 (1) 下校班ごとに並ぶ。 (2) 一方の班が歩いてみる。 (3) 見ていた班の児童は感想を発表する。 (4) 安全な歩き方を知る。 (5) 歩き方の練習をする。	○ 学習の場としては，体育館や校庭，広い教室などがよい。 ○ 下校時の歩き方で問題点があれば発表させ，解決方法はないか考えさせる。 子どもからの感想例 ・ 近づき過ぎて歩いている。 ・ 後ろなどを見てきょろきょろしている。 ・ 真っ直ぐ歩かずふらふらしている。 ・ 距離が離れてしまう。 ・ 2列に並んで横に広がってしまう。 など  ○ 安全な歩き方のポイントを指導する。 ・ 前を見て歩く。 ・ 手を振っても前の人に当たらないくらいの間隔を空ける。 ・ 横にはみ出したり飛び出したりしない。 ・ 決められた通学路をいつも通る。 ○ 体育館の白線などを利用し，その右側を歩かせる。 ○ 様々な場面を想定した体験をさせ，安全意識を高めさせる。 ① 路側帯がある道路…白線の右側を歩く。 ② 路側帯がない道路…できる限り右側を歩く。 ③ 横断歩道を渡る…横断歩道で止まる。(横に3人くらい並ぶ) 右・左・もう一度右を見る。 安全を確認したら早足で渡る。 ④ ガードレールがある道…ガードレールの内側を歩く。ガードレールには触れない。 ⑤ 信号機のある横断歩道…横断歩道の白線に来たら，止まって信号の色を見る。 赤は，その場で止まって待つ。(押しボタン式はボタンを押す) 青になったら，左右を確認してから渡る。 渡ろうとして信号が点滅したら，渡らずその場で待つ。 渡っている途中で点滅したら，急いで渡ってしまう。 ⑥ 踏切がある場合…手前で一度止まり，左右の安全を確かめてから渡る。 警報機が鳴っていたり遮断機が下りかけていたりするときは，渡らない。 遮断機が下りているときは，一歩さがり待つ。遮断機が上がったら，左右を確かめてから渡る。 ※危険な歩き方(縁石に乗る，フェンスや家の塀などに触らないなど)も理由を考えさせるなどして指導を行う。 ○ 学校の周りなどを歩かせ，安全な歩き方が身に付くようにさせる。 ○ 担任の教師だけでなく，数名補助に付いてもらう。 ○ 車が通る道路を歩く場合には，特に注意を要する。車同士がすれ違い，道幅が狭くなるときは，端によけその場で待つなどの指導をし，自ら危険回避する習慣を身に付けさせる。 ○ 自転車が通ったり他の歩行者も歩いたりしていることを意識させる。 ○ 本時で学んだことを今後の下校に生かすようにさせる。
3 体育館で学んだことを基に実際の道を歩く。	

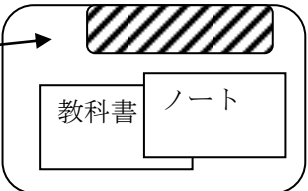
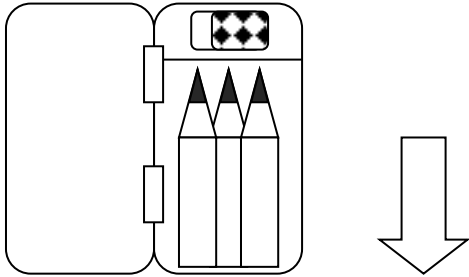
19 避難訓練の前に

正しい避難の仕方を知り、安全に学校生活を送ることができる。

子どもの姿・活動内容	教師の関わり								
1 避難訓練の事前練習をする。 (1) 緊急放送を静かに聞く。 作業を止める。 (2) 黙って、教師の指示を聞く。 (3) 防災頭巾（赤白帽子）を頭にかぶる。 (4) 口をハンカチなどで覆う。 (5) 教室の安全なところに静かに背（番号）の順に並ぶ。 (6) 避難経路に従って避難する。 (7) 上靴のまま避難場所まで小走りで移動する。	○ 避難訓練のリハーサルをする。 【 約 束 】 ・ 学習活動をやめて、体の動きも止める。 ○ さない ○ しらない ○ やべらない ○ どらない ・ 教師の指示が出てから避難するまでは、絶対に「しゃべらない」ことを基本とする。 ・ 落ち着いて、素早く支度する。 ・ ハンカチがない場合には、口を開けないようにする。 ・ 前の人を押したりしないで静かに待つ。 ・ 教師が先頭になって歩くが、前の人を「押したり」、「走ったり」、列から離れたりしない。 ・ 途中で忘れ物に気付いても、「戻らない」。 <tr><td>2 事前練習を振り返る。</td><td> ○ 避難訓練本番に向けて直した方がよい点を明らかにする。 </td></tr> <tr><td>3 椅子につけている防災頭巾の目的について知る。</td><td> ○ 椅子にある防災頭巾の目的について考えさせる。 (防災頭巾を用意していない場合は、赤白帽子などで考えさせる。) ・ 大切な頭を落下物や火などから守るため。 </td></tr> <tr><td>4 安全に防災頭巾を身に付けることができる。</td><td> ○ 安全に防災頭巾を身に付けることを指導する。 ① 自分の椅子にある防災頭巾をだす。 ② かぶる方向を確認する。 ③ 袋状（輪の部分）の部分を頭の上、開いている部分が上の方にくるように頭の上からかぶるようにする。＊両手で開いている方を持つ。 ④ あごのところにある調節具で合わせる。＊教師は具体的に示す。 </td></tr> <tr><td>5 かぶれたら、椅子に座る。もう一度練習することを伝える。</td><td> ○ 自分でもう一度させる。できたら隣同士で点検する。 ＊ かぶり方が正しいか。 ＊ 隣同士で点検できたら、椅子に座り、ハンカチで口を押さえて待つ。 → 場合によっては地震を想定して、机の下に潜らせ、机の脚を持つことを練習させてもよい。＊ 机の脚は斜めに持つと安全。 (イラスト①②) ①  ② </td></tr>	2 事前練習を振り返る。	○ 避難訓練本番に向けて直した方がよい点を明らかにする。	3 椅子につけている防災頭巾の目的について知る。	○ 椅子にある防災頭巾の目的について考えさせる。 (防災頭巾を用意していない場合は、赤白帽子などで考えさせる。) ・ 大切な頭を落下物や火などから守るため。	4 安全に防災頭巾を身に付けることができる。	○ 安全に防災頭巾を身に付けることを指導する。 ① 自分の椅子にある防災頭巾をだす。 ② かぶる方向を確認する。 ③ 袋状（輪の部分）の部分を頭の上、開いている部分が上の方にくるように頭の上からかぶるようにする。＊両手で開いている方を持つ。 ④ あごのところにある調節具で合わせる。＊教師は具体的に示す。	5 かぶれたら、椅子に座る。もう一度練習することを伝える。	○ 自分でもう一度させる。できたら隣同士で点検する。 ＊ かぶり方が正しいか。 ＊ 隣同士で点検できたら、椅子に座り、ハンカチで口を押さえて待つ。 → 場合によっては地震を想定して、机の下に潜らせ、机の脚を持つことを練習させてもよい。＊ 机の脚は斜めに持つと安全。 (イラスト①②) ①  ②
2 事前練習を振り返る。	○ 避難訓練本番に向けて直した方がよい点を明らかにする。								
3 椅子につけている防災頭巾の目的について知る。	○ 椅子にある防災頭巾の目的について考えさせる。 (防災頭巾を用意していない場合は、赤白帽子などで考えさせる。) ・ 大切な頭を落下物や火などから守るため。								
4 安全に防災頭巾を身に付けることができる。	○ 安全に防災頭巾を身に付けることを指導する。 ① 自分の椅子にある防災頭巾をだす。 ② かぶる方向を確認する。 ③ 袋状（輪の部分）の部分を頭の上、開いている部分が上の方にくるように頭の上からかぶるようにする。＊両手で開いている方を持つ。 ④ あごのところにある調節具で合わせる。＊教師は具体的に示す。								
5 かぶれたら、椅子に座る。もう一度練習することを伝える。	○ 自分でもう一度させる。できたら隣同士で点検する。 ＊ かぶり方が正しいか。 ＊ 隣同士で点検できたら、椅子に座り、ハンカチで口を押さえて待つ。 → 場合によっては地震を想定して、机の下に潜らせ、机の脚を持つことを練習させてもよい。＊ 机の脚は斜めに持つと安全。 (イラスト①②) ①  ②								

20 筆箱の中身

筆箱の中身の揃え方を覚え、学習環境を整える。

子どもの姿・活動内容	教師の関わり
1 自分の筆箱の中身を見る。	○ 毎日使う筆箱の中身の揃え方と、正しい取り扱いについて指導する。 【各校の実態に応じて指導】 - 鉛筆 2 B か 3 B : 5 本 - 赤青鉛筆 : 1 本 - 消しゴム : 1 個 (白色で香りや付属品のない物) - 直線定規 1 5 c m : 1 本 
2 筆箱の大切さについて学ぶ。	○ 筆箱には、学習で重要なことや覚えておくことなどを記録して後で見ても役立つように、ノートなどに書くときに必要なものが入っている。いつでも、すぐに使えるように整えておくことが大切であることを理解させる。 ○ 筆箱は毎日学校に持ってくること、いつでも字が書けるように鉛筆が削られていること、間違えたときに消す消しゴムなど必要なものが揃っていることを確認する。 ○ 中身をよい状態に保つために、以下の点に注意させる。 ① 家に帰ったら、使った鉛筆は使いやすいように削っておく。 ② 消しゴムは三本の指で持てなくなったら (小さくなったら)、新しい物に替える。
3 筆箱の扱い方について知り、実際にやってみる。 (1) 置く位置	○ 机の上に置くとき 落とさないような位置に置く。 
(2) 扱い方	○ 扱い方 - 鉛筆を持ったら、後はふたを閉めておく。 - 鉛筆一本と消しゴムだけなど、必要なものだけを机に出し、筆箱は机の中にしまう。
4 筆箱のしまい方について知り実際にやってみる。	○ 机の中やランドセルの中に、静かに鉛筆の頭 (削ってない方) が下の位置になるようにしまう。 

21 言葉遣い

温かい言葉のよさに気付き、優しい言葉遣いができるようにする。

子どもの姿・活動内容	教師の関わり
1 学校での言葉遣いについて振り返る。 (1) 1年生同士で (2) 2年生以上の上級生と (3) 教師や他の大人と	○ 学校には、たくさんの子どもとそれを支えている大人がいる。相手が誰であるのかによって言葉遣いも違ってくことに気付かせる。 (1) 1年生同士・・・普通に話す。いつもどおり。「くん・さん」を付けて呼ぶ。 (2) 2年生以上の上級生・普通に話すが、自分より年が上なのでそのことを忘れないように話す。 (3) 教師や他の大人・・・丁寧な言葉で話す。 ～です。 ～ます。 ～いいですか。 等 授業中はフォーマルな話し方で、休み時間は普通の話しかたでといった決め方もある。
2 (1)と(2)の場合について気持ちよく話すにはどんなことに気を付ければよいかを考える。 	○ 話の例を出し、『ふわふわ言葉』と『ちくちく言葉』について理解させる。 【例】 昨日、Aさんが、校庭を走っていたら転んでしまったので、先生は「大丈夫？けがしなかった？」と言って、起き上がるのに手を貸しました。そうしたら、Aさんから、「ありがとう、大丈夫です。」と言われました。先生は何だかうれしくなりました。 <u>言われるとうれしくなったり元気が出たり、心が温かくなるような言葉を『ふわふわ言葉』と言います。その反対に悲しくなったり嫌な気持ちになったりする言葉を『ちくちく言葉』と言います。</u>
3 友達から言われて嫌な『ちくちくことば』について考える。 	○ 気持ちが悲しくなったり、元気が出なくなったり、嫌な気持ちになってしまう言葉を生活の中から思い出させ、発表させる。 ・ あっちへ行け ・ むかつくんだよ ・ ばか ・ 死ね ・ (ちび、デブ、のろま) のくせに * その言葉を言われた状況や言った相手のことには触れない。
4 友達から言われてうれしくなる『ふわふわことば』について考える。 	○ 言われるとうれしくなったり元気が出たり、心が温かくなるような言葉を、生活の中から思い出させ、発表させる。 ・ ありがとう ・ ごめんね ・ 大丈夫 ・ 上手だね ・ すごいね ・ がんばったね ・ よくできたね
5 友達と仲良く過ごすにはどんな言葉遣いがよいのかについて考える。	○ 『ふわふわ言葉』で友達と話した方が、けんかしないですむことや、友達を大切にしたいと思う気持ちが生まれてくことに触れたい。 ○ 『ちくちく言葉』を言うと友達との雰囲気や関係が何となく重苦しく暗い感じになってしまうので、言わないようにするとよいことに気付かせる。
6 『ふわふわ言葉』でいっぱいのクラスにする意欲をもつ。	○ すぐに実践したくなるように意欲をもたせる。 (1週間分のワークシートなどを活用し、具体的に書いてみてもよい。)

22 発表の仕方と声の大きさ

学習規律として、正しい発表の仕方を身に付ける。

子どもの姿・活動内容	教師の関わり
1 国語の時間に自分の意見の発表の仕方を振り返る。 (1) 質問の答えが分かった (2) 他に意見がある (3) 同じ考え (4) 付け足しがある (5) 反対意見がある (6) 質問がある	○ 授業中、どのように発表したらよいかについて勉強することを伝える。ここでは国語の授業を例に考えてみるが、他の教科に置き換えてもよい。 ○ 国語の内容を深めることよりも、発表の仕方に重点を置いて指導する。 *実際に全員でやってみて確認する。 【発表の例】 (1) 質問の答えが分かった 私は、・・・だと思います。 それは、～だからです。 (2) 他に意見がある 〇〇さんの考えの他にあります。 それは・・・です。 (3) 同じ考え 〇〇さんと同じ意見です。 それは、～だからです。 (4) 付け足しがある 〇〇さんの考えに付け足します。 〇〇さんは、△△△と言いましたが、その他に・・・もあると思います。 それは、～だからです。 (5) 反対意見がある 私は、〇〇さんの意見に反対で、□□□だと思います。 それは、～だからです。 (6) 質問がある 〇〇さんに質問します。 □□□についてどう思いますか。 * この他に、教室内に話形などを掲示しておいてもよい。 2 声の大きさについて考える。 ○ 目的によって声の大きさを変える必要があることに気付かせる。 はっきりと・ゆっくりと * 実際に全員でやってみるとよい。 ダイヤル0 発表なし(聞くとき)・・・声を出さずに静かに。 ダイヤル1 おとなりさん・・・小さい声で。 ダイヤル2 4人(グループ)で・・・他のグループまでは聞こえない声で。 隣同士より少し大きく。 ダイヤル3 教室の中で・・・お腹に力を入れて、教室全体に聞こえるように。 ダイヤル4 体育館で・・・体全体を使ってお腹から声を出す。 ゆっくりと、はっきりと。 * ダイヤル3の声の大きさを大切にし、全員が出れば素晴らしいクラス！ 3 まとめ ○ 教室に掲示してある「声の物差し」や「声のダイヤル」で確認する。



23 ありがとう ごめんなさい

「ありがとう」や「ごめんなさい」の言葉で、明るい生活を送ることができる。

子どもの姿・活動内容	教師の関わり
1 「ありがとう」をどんなときに言い、どんなときに言われたかを振り返る。	○ どんなときに「ありがとう」と言っているのか、また、言われているのかを思い出すことによって、そのときの自分の気持ちも思い出させる。 【自分が言っている】 ・ 何かを借りた ・ 見せてもらった ・ 手伝ってもらった ・ 一緒に行動してくれた ・ ほめてもらった  【自分が言われた】 ・ 何かを貸した ・ 見せた ・ 手伝った ・ 一緒に行動した ・ ほめた
2 隣同士で「ありがとう」を言う練習をする。	○ 消しゴムを隣の人に貸すという設定などで行う。 Aさん：「はい、消しゴムどうぞ。」 Bさん：「ありがとう。」 ① 相手の目を見て ② 明るい声で ③ 聞こえるように
3 「ごめんなさい」をどんなときに言い、どんなときに言われたのかを振り返る。	○ どんなときに「ごめんなさい」といっているのか、また言われているのかを思い出すことによって、そのときの自分の気持ちも思い出させる。 【自分が言った】 ・ 人とぶつかってしまった ・ ものを落としてしまった ・ こぼしてしまった ・ 体育のゲームで失敗した 【自分が言われた】 ・ 遊びを断る ・ けんかしたあと ・ 人の物を勝手に使った ・ 嘘をつかれた 
4 隣同士で「ごめんなさい」を言う練習をする。	○ 隣の人とつい、ひじがぶつかってしまったという設定などで行う。 Aさん：「あっ、ごめんなさい。」 Bさん：「大丈夫だよ。」又は「いいよ。」 ① 相手の目を見て ② はっきり ③ 聞こえるように
5 「ありがとう」「ごめんなさい」と言えると、気持ちが良いことを感じる。	○ 自分が失敗したときに、すぐに「ごめんなさい」と言うと、大きなトラブルやけんかにならないで済むことを理解させたい。また、故意でなくても「ごめんね」を言うことで、互いに気持ちよく過ごすことができることも理解させる。 ○ 今日から早速実践してみるよう意欲を高める。カードなどを使って、期間を区切って集中的に取り組ませてもよい。

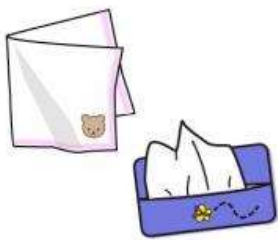
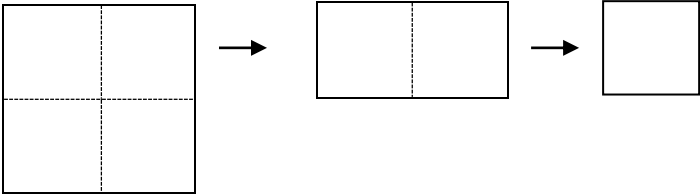
24 水道の使い方

水道の水を大切にするとともに、水道を使う時に水に濡れないようにすることができる。

子どもの姿・活動内容	教師の関わり
1 水道を使うときはどんなときか振り返る。 ① 手洗い ② うがい ③ 洗い物 など	○ 水道の水に関心をもたせる。学校に来て、水道を使わない子どもはいないので、みんなが毎日使う水道について真剣に考えさせたい。 ＊ 全員に経験させたいので、以下の3つの例は別々に扱うとよい。1 単位時間の中で全て扱うのではなく、それぞれ経験させたい。
2 水道の使い方について学ぶ。 【使い方① 水を飲む場合】 ＊ 実際にやってみる。 【使い方② 手を洗う場合】 ＊ 実際にやってみる。 	○ 大勢で一斉に行う場合は、順番を守って水道の前に並んで、自分の順番を待たせる。 【使い方① 水を飲む場合】 1 自分が使う水道のまっすぐ前に立つ。 2 流しになるべく近づく。 3 蛇口を下に向ける。 4 静かに蛇口をひねる。 5 水量が<u>ちょうどよい状態</u>（鉛筆1本分の太さ、あるいは水が勢いで周りにはねとばない）にする。 6 飲み口を上に向けて、水だけに口をつけて水を飲む。 7 飲み終わったら、蛇口をひねり、水を止める。 8 飲み口を下に向け、ゴミが入らないようにする。 【使い方② 手を洗う場合】 上記の1～5までは同じ 6 手を洗い終わったら、蛇口に水をかけてきれいにする。 ＊ 石けんで洗っているときは、水を出しっぱなしにしないで、止めておく。洗い流すときに、再び、蛇口をひねり、水を出す。 7 蛇口をひねり、水を止める。 8 両手を合わせて2～3回縦に静かに振り、水を切る。 9 ポケットからハンカチを出し、手を拭く。 10 ハンカチは使い終わったら、たたんでポケットにしまう。 【手の洗い方】 ① 両手を水でぬらす ② 石けんを手にとって泡立てる ③ 手のひらを合わせてごしごしする ④ 手の甲もごしごしする ⑤ 指の先と爪の間をごしごしする ⑥ 指の間もごしごしする ⑦ 親指をぐりぐりする ⑧ 手首もぐりぐりする ⑨ 水で泡を流す
【使い方③ うがいをする場合】 ＊ 実際にやってみる。 	【使い方③ うがいをする場合】 上記の1～5までは同じ 6 飲み口を上に向けて、飲み口に口が付かないように水を口の中に入れる。（このとき、写真や絵図を使い、口を付けないことを徹底させたい。） 7 水を飲み込まずに、「クチュ クチュ クチュ」とし、吐き出す。 8 もう一度、口の中に水を入れ、そのまま上を向いて、のどの奥まで水を入れ、「ガラガラ」と15秒して、吐き出す。 9 8を2～3回繰り返す。 ＊ 7・8の時は、蛇口からの水を止める。水を出しっぱなしにしてうがいをしない。 10 蛇口の向きを直す。
3 水道を使い終わったら、周囲を確認する。	○ 床が水で濡れていたら、次に使う人が滑らないように、使った人がぞうきんで拭いておくようにする。

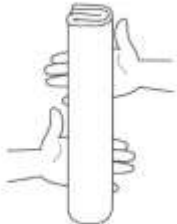
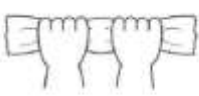
25 ハンカチ・ティッシュ・つめ

ハンカチ・ティッシュはいつも携帯し、正しく使えるようにする。

子どもの姿・活動内容	教師の関わり
1 ハンカチ，ティッシュを机の上に出して，清潔に保たれているか確認する。 (1) 持っているか。 (2) 汚れていないか。 (3) 名前が書いてあるか。	○ランドセルの中に入っている子どももいると思われる。着ている洋服にポケットがない場合や小さくて入らない場合もあると思われる。ここでは，学級でのきまりに合わせる。以下に例を示す。 ・ティッシュは，ランドセルの中と引き出しの中の2箇所に。 ・ハンカチもランドセルの中に1枚，ポケットに1枚など，いろいろな工夫ができる。肝心なことは，身の回りに持っていることである。
2 ハンカチの使い方について振り返る。 (1) ハンカチをどんなときに使うか。 ・ 手を拭く ・ 口をぬぐう ・ 汗を拭く (2) その使い方について (3) それぞれの場合をやるみる。 	○ハンカチについて ＊基本的には毎日使うので，毎日きれいなハンカチを持ってくること。 【ハンカチの使い方】 ① ポケットの端からハンカチを取り出す。 ② 洗った手を拭くときは，あらかじめ手の水を良く切ってから，ハンカチを大きく広げて拭く。 ③ 本来なら乾かしてからしまいたいが，取りあえず，元のようにたたんでポケットにしまう。  ④ 水を飲んで口を拭くときは，広げずにそのまま拭く。 ⑤ 汗などを拭くときは，そのまま拭くが，使ったところを内側にしてしまう。
3 ティッシュについて使い方やその方法について考える。 (1) 汚れを拭くとき (2) 包みこんでつまんで捨てる時 (3) 鼻をかむとき ＊(1)～(3)のいずれかを実際にやるみる。	【ティッシュの使い方】 ① 袋から1枚取り出し広げ，汚れを拭き取る。ゴミ箱に捨てる。 ② ・1枚ないし2枚のティッシュを広げ，つまみ取るものの上にかぶせる。 ・ 片方の手を広げ，上から5本の指でつまみ取るようにしてすぼめ，包み込み捨てる。 ・ まだ汚れがある場合には，もう一度同じようにする。 ③ ・ティッシュを広げ半分におり，自分の鼻に両手を使っておおう。 ・ 片方の鼻の穴を押さえ，「チン」とし，ティッシュを半分におり，再び半分になったティッシュで鼻を両手で押さえ，次にもう片方の鼻の穴を押さえ「チン」とかむ。 ・ かんだら更に半分にし，ごみ箱に捨てる。 ・ まだ，すっきりしない場合は，もう一度同じようにかむ。
4 つめの点検をする。 ・ 長さ ・ つめの中の汚れ	○ 1週間に1度は爪を切ること。手を洗うとき爪の中まで洗うことやなるべく自分で爪を切れるようにすることなどを指導したい。 ○ 長さは，指から爪が出ないくらいよりやや短め。

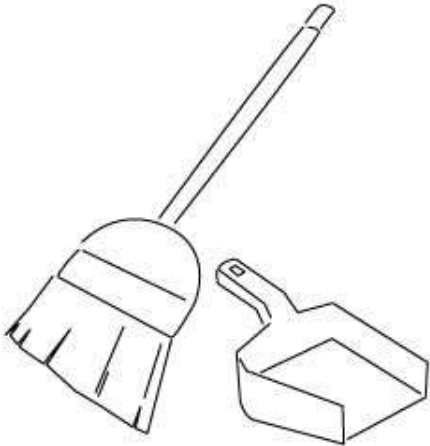
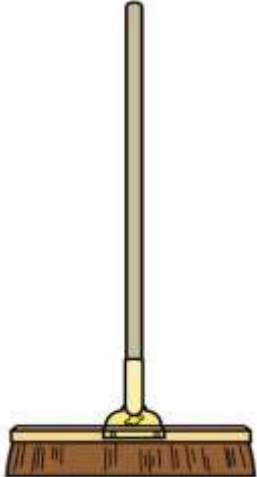
26 ぞうきん・ほうき・バケツ①

掃除に使う用具の使い方を理解することができる。

子どもの姿・活動内容	教師の関わり
1 掃除で使う用具を確認する。 ぞうきん バケツ ほうき ちりとり 2 それぞれの使い方を学ぶ。 (1) ぞうきんの使い方 ① から拭き ② 水拭き 【ぞうきん絞りの練習】  【ぞうきん絞りの本番】 	○ 掃除の仕方よりは、用具の扱い方について身に付けさせたい。実際にその用具を全員に扱わせたい。 ○ 主に教室掃除で使うものを基本にしている。  ○ ぞうきんは、各学級、学年、学校でその利用方法には違いがあると思われるので、ここでは例として取り上げる。 ① から拭き ・ぞうきんを2回折り、その上に片手の手のひらを置く。右、左、右とぞうきを動かしながら後ろに下がって拭く。危険なので、長拭きはしない。 ・その場で全員がやってみる。ゴミがついたら、ゴミ箱に行き、ゴミのついた面を内側にして折り曲げ、2～3回軽くたたき、ゴミを落とす。 ② 水拭き ・バケツに6分目ぐらいまで水を入れる。教室の隅か廊下に置いておく。 ・初めは、ぞうきをバケツの中に入れて絞る。 ・ぞうきの拭き方は、教師が黒板上で拭いて見せると効果的である。 *ぞうきの絞り方は、特別に取り上げて、全員ができるようにさせたい。 【ぞうきん絞りの練習】 ① 1人に新聞紙の半分を1枚ずつ渡す。 ② 2回ふわっと折り、手のひらにのせる。 ③ 新聞紙ぞうきを親指で巻き付けるようにつかむ。 ④ つかんだら、親指の方向にねじる。 ⑤ 力を入れると、きつく絞れる。 ⑥ ぞうきを縦長におり、新聞紙と同じように絞る。  【ぞうきん絞りの本番】 ① バケツに水を入れ廊下の床に置く。グループの数だけ用意しておく。 ② 順番にぞうきを絞る。バケツの周りでは、しゃがんで行う。 ③ 水につけたら、バケツの上でぞうきを縦にして絞る。 ④ 全員が絞れるまで、バケツの周りで待つ。 ⑤ 自分の机の上を拭く。(半分にぞうきんをおり、片方の手で机の端を押さえる。汚れているところは指先に力を入れてこする。) ※きっちり絞らないと、水がポタポタ落ちたり、床がびしょびしょになったりすることを伝える。 ① 手のひらにぞうきをのせて  たてながにおったぞうきん ② つかんだら  ③ ねじる  手のひらを下に手の甲を上にもむける ❌おにぎりしぼり  ❌よこしぼり 

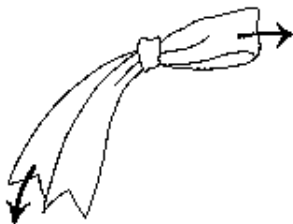
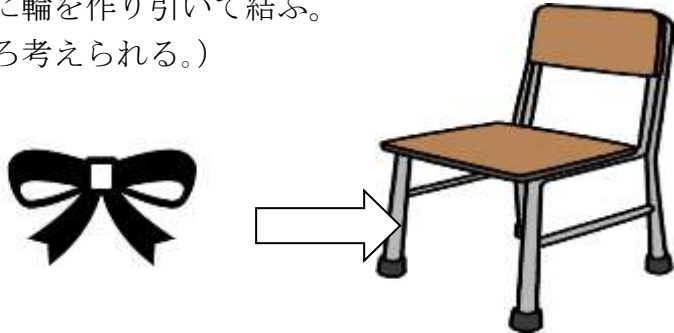
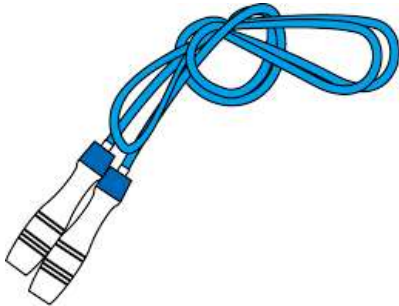
27 ぞうきん・ほうき・バケツ②

掃除に使う用具の使い方を理解することができる。

子どもの姿・活動内容	教師の関わり
1 ぞうきんのゆすぎ方 	【ぞうきんのゆすぎ方】 ① バケツの所に行って、腰を下ろす。 ② 汚れた面を内側にして、ごしごしとすり合わせ、汚れを落とす。 ③ ぞうきを絞りやすく畳み、内側にぎゅっと絞る。 ④ バケツの周りに水がこぼれたときは、絞ったぞうきで拭く。
2 ほうきの使い方 	【座敷ほうき】 ① ほうきには向きがあるので、それを理解させる。 ② 斜めの穂先が短い方が、自分の方にくるようにほうきの柄を握る。 ③ ほうきでゴミをサッととはかずに、穂先は床に着けるように静かにはく。 小さくゴミを一箇所にまとめる。  【自在ほうき】 ① 両手で持ち、真っ直ぐ前に進みながらはく。 ② 毛先を床から離さないで、軽く押さえるようにはき進め、ほこりを立てないようにする。 ③ 毛先に付いた綿ぼこりは、こまめに毛かきで取り除く。 ○ ほうきではいたら、ゴミを一箇所に小さくまとめる。その後にちりとりで取る。一人の子どもがほうきとちりとりを一緒に扱えるまでは、ちりとりも一人の役目とする。 ＊ グループで・順番に列で・などして全員が経験する。 ＊ ちりとりまで一連の流れとして行う。
3 ちりとりの使い方 	【ちりとりの使い方】 ① ちりとりの先を床にしっかり付ける。(ややしゃがみ込む) ② ほうきの人は、静かにちりとりに入れる。 ③ 一回入れたら、ちりとりを少し後ろ（手で持っている柄の方）に引く。 ④ 何度かこれを繰り返して、細かいゴミまできちんと取る。 ⑤ ゴミが入ったら、柄の方にゴミを寄せる。 ⑥ ゴミをとばさないように、静かにゴミ箱まで持って行き捨てる。 ＊ 一人で片方の手にちりとりを持ってできる子どもは、そのままやらせ、みんなに見てもらうのもよい。 ＊ 以上、毎日行うことなので、時間をかけて丁寧に指導したい。回数をこなすうちにできるようになるので、繰り返しの指導をする。

28 いろいろな結び方

自分の身の回りでひも結びのあるものを見付け、その結び方ができる。

子どもの姿・活動内容	教師の関わり
1 ひもで靴ひもやリボンを結んだことがあるか振り返る。 - 靴ひも - プレゼントのリボン - その他	○学校生活で活用の頻度が高い靴ひもと鉢巻を取り上げ、できるようにさせたい。 
2 ひもなどがほどけないように上手に結ぶ練習をする。 (1) 固結び (2) 片リボン結び 	○はちまきを一人1本ずつ配る。この鉢巻で3種類の結び方を練習する。 【固結びの仕方の例】 ① 椅子の横の部分を使う。 ② 鉢巻を横にぐるっと回す。 ③ 片方の鉢巻の下からもう片方の鉢巻を通し、強く引く。 ④ ねじれをよく見ながら、同じように結ぶ。 *何度か練習する。 【片リボン結びの仕方の例】 ① 椅子の横に鉢巻を巻き付ける。 ② 片方の鉢巻の下からもう片方の鉢巻を通し、強く引く。 ③ ねじれをよく見ながら、片方に輪（うさぎさんの耳を作る）その輪の周りをぐるりと通し、引き抜いて結ぶ。
(3) リボン結び	【リボン結びの仕方の例】 ① 椅子の横に鉢巻を巻き付ける。 ② 片方の鉢巻の下からもう片方の鉢巻を通し、強く引く。 ③ ねじれをよく見ながら、片方に輪を作り、その輪の周りをぐるりと通し、引き抜く時に同じように輪を作り引いて結ぶ。 (例 いすの他にもいろいろ考えられる。) 
3 結ぶ練習をする。	* 1回では難しいが、何回か練習していくうちにできるようになる。ほどくときは片方を引っ張ると、簡単にほどけることも教える。
4 縄跳びのひもを束ねて結ぶ。 	【跳び縄の束ね方】 ① なわを両手で持って輪っかを作りながら、端っこを上の方で交差させる。 ② 交差した端っこのどちらかを輪っかに入れる。 ③ 『うさぎの顔を作って耳を顔(輪っか)に通す』と教える。 * 手で持った状態で結ぶことが困難な場合は、床に置いて結び方を教える。 

29 休み時間の過ごし方

学校生活の流れを知り，休み時間は自分で考えて使う時間であることを理解できる。

子どもの姿・活動内容	教師の関わり
1 休み時間はどんなことをするのかを考える。 (1) いつあるのか (2) 何回あるのか (3) 時間の長さは (4) みんな同じ時間か (5) 10分の休み時間を体験する。 	○ 学習と学習の間には休み時間があるが，どのように過ごしたらよいのかを考えさせる。10分休みと20分休み，お昼休みを取り上げて考える。 ○ 時間割を見ながら，自由に言わせる。 ○ どんなことをして過ごしたらよいのかを最後は考えさせたい。 【10分休みの場合】 *入学当初は，校庭での遊びは決まりをきちんと伝えてからにする。或いは，みんなと一緒にいくなど行動を共にする。 ① 次の時間の学習の用意をする。 (終了の礼の後すぐに次の教科の用意をするように一斉に行う。) ・ 体育なら，着替えをする。 ・ 音楽などは音楽室へ行くために廊下に並ぶ。 ② トイレに行く。 ③ 水を飲む。 ④ 自分の席や教室の中でのんびりする。 ⑤ 友達や周りの子どもとおしゃべりをする。 ⑥ 学級にある本を読んだり，自由帳に絵を描いたりする。 【20分休み・お昼休みの場合】 ・ 10分休みと同じだが，外に行けるようになったら，外で元気よく遊ぶ。 ・ 予鈴がなったら，遊びの途中でも終わりにして，走って昇降口まで来る。 ・ 昇降口では，ズボンやスカート，靴下についた埃や泥をはたいて落とす。 ・ 校舎の中へ入ったら，歩いて自分の教室まで来る。入る前にうがい・手洗いを忘れずに行う習慣を付けさせる。
2 トイレはいつ行った方がよいのかを考える。	○ トイレは学習が始まってからではなく，休み時間に済ませるようにする。授業が終わったらすぐに行く。 ○ トイレに近い子どもは，休み時間に行かせる。 普通の子どもは20分休みに1回，給食の前に1回，帰りの会の前に1回ぐらいを目安に声掛けをする。 ○ 授業中に，どうしても行きたくなってしまったら，教師の所まで静かに歩いて行って，「トイレに行ってきます」と言ってから，トイレに行く。
3 休み時間は友達と仲良く過ごすと楽しくなることを学ぶ。	○ みんなと仲良く遊んだり，話したりして楽しい時間にするように過ごす。
4 日直は休み時間に仕事をすることに気付く。	○ 日直の仕事については別に掲載するが，この休み時間に黒板を消したり，健康観察カードを提出したり，日誌を書いたりすることも考えられる。 * 係活動と関連して指導する。

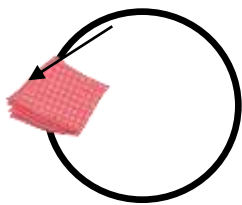
30 友達をつくろう①・名刺交換

先生やみんなの名前を覚え仲良くすることができる。

子どもの姿・活動内容	教師の関わり
1 同じクラスの子どもたちと仲良くすることの話を聞く。 2 教師から名前を呼ばれ、名刺をもらう。 3 教師の名刺をまねて、名刺を作る。	○ ほとんどの子どもが、小学校に入学して初めて他の友達と出会うため、名前を覚えることから始まる。近くの子どもとのやりとりから仲良しになっていくことが考えられる。ここでは、自分の名前を相手に伝えることにより、次の関わりを期待させることにする。 みやぎ よしこ 1ねん〇くみ *「1ねん〇くみ」は、あらかじめ印刷しておく。 だて むねまさ 1ねん〇くみ 1ねん〇くみ 1ねん〇くみ ○ 自分の名前が書けない子どもは、自分の顔や好きなものでよいことを伝え、安心させる。 4 名刺交換ごっこをする。 ① ルールを知る。 ② 名刺交換ごっこを始める。 ○ 5分間で多くの友達と名刺交換する。 【ルール】 ① 音楽がなったら自由に歩く。 ② 音楽が止まったら「お願いします。」と言って近くの友達と握手をする。 ② じゃんけんをする。勝った人から、自分の名前を言う。「みやぎ よしこです。どうぞよろしく。」と言って自分の名刺を渡す。 ③ 次に負けた人も「だて むねまさです。どうぞよろしく。」と言って自分の名刺を渡す。 ⑤ 音楽がなったらまた歩き出し、①～④を繰り返す。 ⑥ 10人を目安に行う。 ○ 1人になってしまった子どもは、教師が探してペアを組ませたり、3人でさせたりする。 ○ 名刺がなくても自分の名前を相手に言って握手をし、続けることを付け加える。 ○ 自分のクラスの子どもたちは仲間だという意識にさせることが大切である。
5 友達の名刺を大事にし、友達の名前をできるだけ多く覚えるようにする。	

31 友達をつくろう②・一緒に遊ぼう

友達と一緒に遊ぶ際に、コミュニケーションを通して仲間に入れてもらうことを知る。

子どもの姿・活動内容	教師の関わり
1 遊んでいる仲間に入れてもら うときにどうしたらよいかを考 える。	○ 入学当初は、みんなで誘い合って遊ぶことは少なく、ただ何となく遊具で一人一人 が遊ぶことが多い。たまたま一緒にいる子どもと同じ遊具で遊んでいるような雰囲気 になることが多いため、特に「入れて」と言葉を介さなくても遊べることが多い。 ここでは、同じ遊具を使うときでも「入れて」と言ってから、同じ遊具で遊ぶ方が互 いに気持ちよく遊べることを伝えたい。
2 「高鬼」をしている中に入れ てほしい場合、教師の子ども役 を見て、どれがよいかを考える。	○ 教師が「仲間に入れてほしい子どもの行動」をいくつか演じて見せる。 【行動例】 ① 言葉はないが、遊んでいる子どもの顔を見てにこにこしている。 ② 何も言わないで、いつの間にか遊びの中に入ってしまう。 ③ その中の一人に「はいっていい？」と聞いてから入る。 ④ 大きい声でみんなに向かって「入れて」と言ってから入る。 ⑤ 一緒に入りたいが誰かが誘ってくれるまで、見て待っている。
3 どの方法がよいか話し合う。	○ 様々な考えが出てくることが予想される。「④がよい」と思っている、「自分には できない」という理由で、よい方法と思わない子どもがいるかもしれない。そこで、 みんなに聞こえる声で「入れて」と言うことが、これからの生活に必要であることを 理解させたい。
4 4人グループで仲間に入る方 法や、仲間に入れる方法を実際 にやってみる。	○ 仲間に入る方法を知る。 ① 3人が手をつないで、仲良く遊んでいる。 ② 1人が大きい声で「入れて」と言って、3人に呼び掛ける。 ③ 言われた3人は、それぞれが「いいよ」と言って4人で手をつないで終わる。 ※1人で「入れて」と言う役は全員に経験させる。
5 「入れて」と言って、「いいよ」 と言われたときの気持ちを考え る。	○ 自由に感想を言わせる。 「気持ちよかった。」「うれしかった。」「うきうきした。」「にこにこしてしまう気持ち。」
6 「いいよ」と言ったときの気 持ちを考える。	○ なんだかよいことをした気分になることを感じさせる。 仲間に入れたり、入れてもらったりしたときに、互いにより気持ちになることを体験 を通して理解させたい。
7 ハンカチ落としゲームを教室 内でみんなで行い、学習のまと めとする。 ※他の例 ・伝言ゲーム ・○人組作りゲーム など	 ○ みんなで楽しくハンカチ落としゲームを行う。 ○ 同じ人に落とさずに、いろいろな人に落とすようにする。 友達を気遣って遊ぶことの楽しさを体感させ、まとめとする。

32 友達をつくろう③・ごめんね

自分の失敗や相手にいやな思いをさせたときは、素直に「ごめんね」と謝ることができる。

子どもの姿・活動内容	教師の関わり
1 教師の話聞いて、どうしたらよいかを考える。 ・ Bさんが謝る。 ・ Aさんは怒る。 ・ Aさんは教師に言う。	昨日、流しのところで、うがいをしていたAさんに、走って教室に入ろうとしたBさんがぶつかってしまいました。Aさんはうがいの途中で、ぶつかったはずみで前のめりになり、コップに入っていた水を全部こぼしてしまいました。このとき、BさんやAさんはどうしたらよいでしょうか。
2 似たような経験はなかったか振り返る。	○ 同じようなことでなくても、友達との間でささいなことで嫌な感じがしたり、けんかになってしまったりしたことなどを振り返らせる。 ・ 消しゴムを黙って使われた。 ・ 横の人のひじがぶつかって、書いていた文字が曲がってしまった。 ・ 前の人が急に後ろへ椅子を引いたので、手を挟まれてしまった。 ・ 「前にならへ」をしていたら、前の人が急に後ろに下がって来た。 ・ 並んで待っていたら、横入りをした人がいた。
3 そのときどんな気持ちがあったかを思い出す。	○ そのときの気持ちや相手の人がどうしたかを思い出させる。 ・ びっくりした。 ・ 悔しかった。 ・ 頭に来た。 ・ 「ごめんね」と謝った。 ・ 黙ってそのまま行ってしまった。 ・ 困った顔をしていたので「いいよ」と言った。
4 どうするのが良いのかを知り実際にやってみる。 (1) 謝り方 ・ 相手の顔を見て ・ 相手に聞こえる声で ・ はっきりと ・ 心を込めて ・ 悪かったことをきちんと 言って「ごめんね」と言う。 「～して、ごめんね」 (2) 許し方 ・ 「次の時は気を付けてね」 「もうやらないでね」と嫌なことははっきり伝えて許す。 ・ 二人組で練習する。	○ 相手に悪いことをしてしまったと思ったら、そのまま黙っていないで、心を込めて「ごめんね」と謝る。(1) ○ 言われた人は、許してあげるよという気持ちで「いいよ」(2)と言って仲良しになる。 ○ 二人組でそれぞれの立場を経験させる。わざとではなく、ついやってしまったときでも、謝ることで、互いによい気持ちになることにも触れる。
5 実際の生活の中で使えるようにする。	○ 謝ったり許したりして、仲良く生活するようにまとめる。

33 友達をつくろう④・また今度ね

友達に誘われたときに、上手に断る方法について理解する。

子どもの姿・活動内容	教師の関わり
1 教師の話聞き、どうしたらよいのかを考える。 - 断る。 「今日はだめ」と言う。 「少しならいいよ」と言う。 「いいよ」と言う。 - お母さんに断ってもらう。	① 友達に「家に帰ったら、遊ぼう。」と誘われたが、今日はおばあちゃんの家に行くことになっているので遊べない。 ② 「今日、君の家に遊びに行くから、ゲームをさせてくれない？」と言われた。今日は一人で留守番をすることになっていて、お母さんから、一人でいるときに友達を家の中に入れて、ゲームをしてはいけないと言われている。 ○ まず、自分の気持ちをはっきりさせることが大切であることに気付かせる。 ① 遊べない。 × 本当は遊びたいんだけど…。 ② ゲームはできない。 × 本当はゲームがしたいんだけど…。 ○ いくつかの言い方が考えられるので、子どもたちの発言をできる限り尊重して取り上げたい。 <u>【初めに謝ってから、その理由を言う】</u> 「ごめんね。今日はお母さんとおばあちゃんの家に行くことになっているから、また、今度誘ってね。」 「せっかく誘ってもらったんだけど、ごめんね。お母さんと約束してあるから、今日は遊べないんだ。」 「あっ、悪いね。お母さんがいないときは、ゲームできないことになっているんだ。また、今度お母さんがいるときに遊ぼうね。」 <u>【初めに理由を言ってから、謝る言葉を言う】</u> 「今日はお母さんとおばあちゃんの家に行くことになっているから、また、今度誘ってね。ごめんね。」 「お母さんと約束してあるから、今日は遊べないんだ。せっかく誘ってもらったんだけど、ごめんね。」 「お母さんがいないときは、ゲームできないことになっているんだ。また、今度お母さんがいるときに遊ぼうね。悪いね。」
3 二人組になり、「断り方」を実際にやってみる。	○ 近くの子と二人組になり、上記のどちらかを選んで実際に断ってみる。 ○ 断られた子どもは何と云えば良いのかも考えさせたい。 ごめん。  ううん。気にしないでね。
4 どんな気持ちだったかを話し合う。	○ 上手に断ったとき、断られたときにどのような気持ちがしたかを振り返らせる。上手に断ることで、互いに嫌な気持ちにならないことを確認し、早速実生活で実践するよう励ます。

34 友達をつくろう⑤・お助けマン

困っている友達がいたら、声を掛けて手助けすることができることを理解する。

学習活動	教師の関わり
1 小学校に入学してから、困ったときに友達に助けてもらったことがあったか振り返る。	○ 上級生が、1年生の世話をしてくれたことを多く挙げられる。そのことを十分出させた上で、1年生同士でそのようなことがなかったかを考えさせる。 ① 教科書を忘れたときに、隣の子どもがそっと見せてくれた。 ② 着替えて外に行くとき、ちょっと心細かったが、後ろから来た友達に「一緒に行こう」と声を掛けてもらった。 ③ 何をしようかと思っていたら、「一緒にやらない？」と誘ってもらった。 ④ 給食着の着方が分からなくて困っていたら、友達が手伝ってくれた。 ⑤ プリントの折り方が分からなかったときに、隣の人がやってくれた。 ⑥ ぞうきんが落ちているのを教えてくれて、椅子に掛けてくれた。 ⑦ 一緒に日直の仕事を手伝ってくれた。(黒板消し) ⑧ 転んだときに、優しく保健室まで連れて行ってくれた。
2 その時の気持ちを考える。	○ 以下の反応が予想される。 ・ うれしかった。 ・ 急に優しい友達ができた感じがした。 ・ 自分も今度同じようにしようと思った。
3 困っているような友達がいたら、どうしたらよいかを話し合う。	○ 自由に発言させる。 ・ 特に言葉は掛けないが、一緒にやってあげる(手伝う)など ○ 言葉掛けとしては、<u>「手伝おうか」「だいじょうぶ?」「どうしたの?」「一緒に～する?」</u>など、きっかけを作る言葉を紹介したい。
4 教師が困り役になり、お助けマンを代表の子どもが演じるのを見て、感得させる。 ※ 代表児童8名が演じる。	○ 1の①～⑧を順に演じる。 【子どもの役割演技】 ① そっと本をずらして見せる。 ② 「一緒に行こう」と声を掛ける。 ③ 「一緒にやらない？」と誘う。 ④ 「どうしたの?」「手伝おうか?」といって手伝う。 ⑤ 隣の人が、やってくれた。 ⑥ ぞうきんが落ちているのを教えてくれて、椅子につける。 ⑦ 「手伝おうか?」と言って一緒に日直の仕事を手伝う。(黒板消し) ⑧ 「大丈夫?」「保健室に行く?」といって、保健室まで連れて行く。 ※してもらったら、「ありがとう」を言う。
5 隣同士で4を参考に実際にやってみる。	○ ①から⑧の中から自由に選ばせて行う。 
6 実際にやってみて、感想を発表する。	○ 困っている時に親切に声を掛けてもらうことで、互いによい気持ちになることをまとめ、積極的に実践してみるよう励ます。

35 みんなが集まる場所は，シーン

大勢の人が集まる時は，その場に入って出るまでは，静かにすることを理解する。

子どもの姿・活動内容	教師の関わり
1 初めての朝会があることを知り，どんなことに気を付けたらよいか考える。	○ 朝会は，体育館などに1年生から6年生までの全員が集まって，校長先生の話やそのほかの教師から大事な話を聞く会であることを知らせる。 ○ 大勢の人が集まり，大事な話があるので，黙って聞き取ることが大切であることを理解させる。
2 体育館に入るときは，どのように入るのかを考える。	○ 体育館に入るまでの過程 ① 教室の後ろに、背の順に並ぶ。 ② 必要なこと以外はしゃべらない。（教室に戻ってくるまで） ③ 廊下は静かに歩く。 ④ 体育館に入ったら，しゃべらない。 ⑤ 列をまっすぐにして，前から座り，静かに待つ。
3 話を聞くとときに気を付けることは何かを考える。	○ 以下の点に留意したい ① 話し手を見ながら聞く。 ② 話し手の顔が見えなくても頭をふらふらさせないで、体育座りを保ちながら、前を向いて聞く。 ③ どんな話なのか考えながら聞く。
4 話が終わったら，どのようにするのかを考える。	○ 話が終わるとほっとして何か話したくなるが，「しゃべらないで待つこと。多少，体がリラックスするようなことがあっても，足を開く程度でふらふらしない。」ことに気を付けさせたい。 ① 話し手が後ろに一步下がったら，「礼」をする。 ② 次の教師が話すまで，しゃべらないで待つ。 ③ 全部終わったら，順番に静かに退出する。
5 1～4を基に実際に体育館へ行き，やるみる。	○ 集会などでの話の聞き方のポイントを実地に確認する。 ① 静かに ② 話し手を見る ③ 考えながら聞く ※ 話の途中で気分が悪くなったら，その場に静かに座るか，近くにいる子どもに伝え，教師を呼んでもらうなどすることを教える。 校長先生は どんなお話を するのかな？
6 朝会本番でも今日のように行うことを確認する。	

平成30年度 塩竈市アプローチ・スタートカリキュラム作成委員会

（ 作成委員 ）

	所 属 名	職 名	氏 名	備 考
1	塩竈市立第二小学校	校 長	松田 攝子	委員長
2	塩竈市立第一小学校	校 長	佐藤 晴子	副委員長
3	利府聖光幼稚園	教務主任	千葉 まき	アドバイザー
4	市健康福祉部子育て支援課保育係	課長補佐兼係長	津島 康子	アドバイザー
5	市学びの支援センター「コラソン」	スーパーバイザー	櫻井 有一	アドバイザー
6	塩竈市立第一小学校	教 諭	関内 智湖	2年主任
7	塩竈市立第二小学校	教 諭	安達 紀子	1年主任
8	塩竈市立第三小学校	教 諭	赤間 広美	4年主任
9	塩竈市立月見ヶ丘小学校	教 諭	山本 悠介	1年担任
10	塩竈市立杉の入小学校	教 諭	阿部三智子	1年主任
11	塩竈市立玉川小学校	教 諭	伊藤 美雪	1年主任

あとがき

スタートカリキュラム（第3版）が出来上がりました。

作成委員の先生方のご尽力に感謝するとともに、御指導いただきました先生方、各方面から支えてくださった方々、本当にありがとうございました。小学校へ入学した子どもたちが幼稚園・保育所（園）での学びを生き、スムーズに学校生活へ適応していけるよう御活用いただき、塩竈市の子どもたちが、健やかに成長することを願っています。

【参考文献】

- 「遊びと学びの手引き」 埼玉県入間市 子ども未来室事業【第2版】
平成23年11月発行

塩竈市アプローチカリキュラム 幼稚園・保育所（園）編【第3版】

平成31年2月

発行者 塩竈市教育委員会